

柘尾 武

一 はじめに

『怪奇鳥獸圖卷』という名稱が最初からつけられていたかどうか不明であるが、長尾鷄、馬鷄(ジャ
ワ鳥やスズ諸鳥に住むアオエリヤレイと思われ、日雉、猿等相像を越えない、安實在の珍鳥、獸や
異鳥獸あるいは鼓とか帝江のような異種、か畫題になった作品)によって構成された圖卷である。
この圖卷を研究してみようと考へに契機は伊藤清司監修・解説 磯部祥子解讀になる同
圖卷の影印出版(工作舎)であった。三十數年前末『山海經』を斷續的に研究し、時時講じ
ていた論者は一度も論文を發表しておらず、この圖卷が出版され、評を求められ、やつと研究の
一部を公表してみよう氣になつたのである。來年は『山海經』及び圖板類をハム刊する豫定である
ので、その前編として本論をまとめることにした。本論は次のような構成になる。

- 『怪奇鳥獸圖卷』の典據考證
- 考證に使つた資料の書誌
- 別表・別圖・索引

から成る。考證は別表別圖に基づいて行つているので併せて参照されたい。『鳥獸人物戲畫』
は『山海經圖』から影寫を受けて描かれた圖卷と思へるが、一部を除き今回は省略したが、
注目に値するであろう。

二 『怪奇鳥獸圖卷』の典據考證

『怪奇鳥獸圖卷』(以下圖卷と略稱)の配列はたゞい、別表及び別圖によって考證を逐次的に加えたい。圖卷の筆者は最初に黒線によって描き、その後本人が別人が彩色したように見えるが、このことについては別の機会に述べたい。また、格調に大きな差があるが、鳥羽僧正の「鳥獸戲畫」の影響をいへばヒントを得たのではないかと悪思考する。これもまた別の機会に譲りたい。別圖に示すように圖卷の筆者は『三才圖會』(以下圖會と略稱)と胡文煥の『新刻山海經の附圖』(以下圖本と略稱)を中心に、『本草綱目』の圖(以下綱目と略稱)及び『山海經釋義』の圖(今回は同系統の和刻本『山海經』以下山海經圖と略稱)を参考に作圖したものと考えられる。

圖會は明・萬曆三十七年(一六〇九)序刊本、我が慶長十四年に當る。圖卷七十六圖に對して七十一圖が一致する。圖本は萬曆三十二年(一五九三)我が文祿二年に當る。圖卷の七十一圖に對して六十五圖が一致する。山海經圖は『山海經釋義』が萬曆三十五年(一五九七)、我が慶長二年に當るが、この圖はあまり日本では普及せず、和刻の原本に當る明刊が、和刻本が使われたと考えられる。圖卷七十六圖に對して約五丁圖が一致する。綱目は萬曆十八年(一五九二)我が天正十八年に當る。和刻本の圖を附するものは寛文九年(一六六九)の刊本が初期のものである。圖卷の詞書の設讀の多さから考えると和刻本は使われなかったであろう。以上のことから勘案して明の萬曆十八年(一五九二)から萬曆三十七年(一六〇九)頃の間の圖が基本になつたと考へて支障ないであろう。これを考慮して次に考證してみる。(參考資料―別圖・別表参照)

1 精衛 せいせい

圖卷の結びの部分に「けいのむかし」とあるのは圖本、圖會の詞書に「發鳩山有鳥狀如鳥白首能赤發名曰精衛其鳴自呼是神農少女名曰嫫母嫫母加昔遊東海澗而不返化為精衛云云」とあるが、傍線部は「神農の少女、女娃と名づく、昔東海に遊び云云」と讀める。女娃の女が脱落し、娃をけいと誤讀し、皆云と續けるべきところをむかしで文を切つてしまつたために混亂を招いたのである。『山海經』もほぼ同文であるが、圖本、圖會の文がより圖卷の詞書に近い關係にある。鳥の姿は圖本、圖會が雉に似ているのに對して圖卷は鳩に似ている。その原因は發鳩山に原因が認められる。

2 獄鳥鷲がとさく

獄鳥鷲を「ごくりよ」と誤讀したことはすでに指摘されている。圖本、圖會に「丹穴山有獄鳥鷲者鳳之屬也亦神鳥也如鳳五色而多紫國語書名曰周之興也鷲鷲鳴于岐山」とある。圖本「岐山」とあるべきところ「岐」となっている。圖會は岐山となつてゐるので、圖卷は圖會を底に譯してゐることになる。『山海經』には「獄鳥鷲は見えす鳳皇が登場する。昔『山海經』に鳳皇」ともに取上げられていたのかも知れない。圖本には現『山海經』に見られない鳥獸が十二圖存在する。なお圖卷の圖は鶏に似ているが、これは『山海經』の鳳皇が「其狀如雞五采而文」と述べられている。『鶏』により作圖されたとも考えられる。圖の多い『山海經』は南宋版以下明版も多數存在するので圖卷の筆者は當然見えていたであらう。ただし、この畫師は漢學の素養はあまり無かつたであらう。

3 蛭鼠

圖本圖會に「拘扶山^{カウフサン}有鳥狀如鷄^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}而鼠尾名曰蜚鼠^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}見則國大旱^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}」とある。山海經圖に「拘扶山」と言う。圖本、圖會の詞書を底に作圖したと考えられる。圖卷は「鼠尾」を強調して作畫している。

4 數斯

この數斯とい鳥は圖卷「ずし」と読む。圖本、圖會共に卓塗山に住み、「山海經」は卓塗山に住むという。圖本、圖會に「卓塗山有鳥狀如鴉人足^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}名曰數斯^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}食之^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}」とある。「山海經」では鴉に對して鴉である。圖卷や圖本は鴉形の鳥であり、圖會と山海經圖は同形であるが鴉でもなくむしう雉に似ている。たゞ圖卷は「加鴉」の語を持つ圖本、圖會を底本にしていると言える。圖卷「わか身をくらひてやす」としたのは「己」を「己」とし「己」を食らひと訓み「癪を癪」と思い違いをしてしまつたと考えられる。

5 鳥溪

この鳥の漢字は圖本、圖會も同じ、山海經圖や圖書集成は後字を用いる。圖卷兵亂をいやうらんと吳音で讀む。他にも吳音で漢字を讀むこと多く、圖卷の詞書を書いた人物は佛教の僧侶である可能性が高い。圖卷の底本は圖本か圖會であろう。圖卷の圖に一番似ている圖は山海經圖である。足の位置に注目。

6 駝鷄

駝鷄は駝鳥の別名。駝蹄鷄ともいう。圖書集成は明、馬歡の瀛涯勝覽^{カウフサンニウチウジヤクニシキ}（永樂十四年（1414））を引いて阿丹國（Aden、アデン今のイエメン）の駝雞、祖法兒國（Zufair、サファール今のオマーン）の駝雞を取り上げている。「大明一統志」卷九千安南の忽魯曾護斯國（Homun、ホルムズ今のイラン）

によると永樂中(一四〇三—一四二四)にホルムズ國より天馬、靈羊、福祿(馬)と共に駝雞を中國へ朝貢品としてもたらされている。清の王鴻緒が教を奉じて編んだ『明史彙編』(雍正九年(一七三三)序刊)に「有駝雞頸長類鶴、足高三四尺、毛色若蛇、云云」と述べる。蛇鳥を知らる者から圖卷の圖を見ると奇異に見えるが、文言に忠實に描かれている。綱目の圖を參考に圖卷が描かれたかに見える。ただ足の形から判断すると綱目の圖は圖卷の雛形とはなり得なかつた。

7 鴉

圖本、圖會に「長古山有鳥狀如鴉、而人面脚如人手、名曰鴉、其鳴自呼、見則其國多、曠士又多放士放逐也」とある。この長古山は山海經圖では「長右崑山名」とする長右山のことであらう。圖卷の圖主は「曠士(物事にとられすやつたりした人)」「ないしは「放士(放逐された人)である。読み誤つたと考えられる。あるいは「其國多曠士」の「曠」字を省略して、しかも「士」を「ま」に誤つたと考えられる。底本は圖本が圖會である。

8 鵝鵝

山海經圖「翼望之山、圖本、圖會「翼望山、有鳥狀如鳥、三首六尾、自為牝牡、善笑、名曰鵝鵝、服之不昧、佩之可以禦兵」と。山海經圖は「服之使人不厭、注不厭、不厭、不厭、不厭」といふ。圖卷、圖本、圖會共に「鵝字、一以テ兵ヲ禦すべし」に共通點が認められる。鵝鵝「をぎてう」と讀むのはすでに指摘されているように誤讀、詞書の釋文の「へい」を「すべし」は「へい」を「よすべし」の誤り。「翼望」を「よまう」と讀むのは笑音によるもの。底本は圖本が圖會。なを「鵝」を「鵝」とするは俗字。山海經圖は「鵝」字である。

9 鷓鴣

この鳥は山海經に馱餘(一本馱餘)といひ、圖本圖會及びこれに基づく圖卷は鷓鴣と書く。柘陽山柘陽山有鳥狀如鷓鴣其足赤色名曰鷓鴣可以禦火火と。鷓鴣を「こよ」柘陽山を「たんやう」との誤讀はすでに指摘されている。「可以禦火」は「ぎよ火をもつてすし」と讀んだのである。「鳥は鳥」であらう。そのようにしている「山海經」もある。

10 長尾鷄

長尾形は朝鮮國原産の鳥である。「後漢書東夷傳卷六十五」馬韓人知田鷄(中略)有長尾鷄尾長五尺とあるのが古い例として指摘されている。綱目の圖等あるいは江戸郡の尾長鳥の繪が雛形となつたものであらう。傳鳥羽僧正筆寫獸物戲畫には長尾鷄うき繪が見られる。

11 馬鷄

明の本蘇の「見物」に「馬雞色緑」とある。馬雞は雞の一種である。色は緑である。「カニク山」は未詳。馬雞はジャワ鳥ヤスダ諸鳥に住む「アオエリヤケイ」の系統の鷄か。

12 白雉

「大明一統志卷九十九」安南に「白雉」周成王時越裳氏來獻漢光武時日南九真貢」と見える。初唐の「藝文類聚卷九十九」祥瑞部下雉に「孝經授神契曰周成王時越裳獻白雉(中略)漢書平帝元始元年春越裳重譯獻白雉」とある。「太平御覽卷九十九」には白雉の項を設ける。安南は今のヴェトナム國。「じやうわう」は成王、吳音。「後漢書卷一下」光武帝紀十三年九月「日南徼外蠻夷獻白雉自免日南屬交州」とあるのが、かんの光武の時も出る」を指す。おそらく、簡便な類書類から得た知識であらう。

13 瞿如

圖卷は三首二足の鳥であるが、圖本、圖會も同じである。「脣過山有鳥狀如鴉似鳧脚小長尾白首三脚二足名曰瞿如其鳴自呼」と。山海經圖には「其狀如鴉(甲略)而白首三足人面其名曰瞿如」といふ人面三足の鳥である。圖卷の底本は圖本、圖會である。

14 鸚鵡

圖書集成の鸚鵡は標で別物。圖本、圖會「三危山有鳥一首三身狀如鵞黑文而赤頸名曰鸚鵡」とあり、山海經圖の三危之山「有鳥焉一首而三身其狀如鸚鵡其名曰鸚鵡鸚鵡似鵞黑文赤頸云々」とあつて鸚鵡に似た鵞のことを言っている。圖卷の底本は圖本と圖會である。圖卷の鸚鵡は圖本、圖會と頭の形が違ふが、このよふな例は他にもある。鸚鵡を「がく」と誤読。

15 絜鈎

絜鈎という鳥山海經圖は絜鈎と稱し、圖本、圖會は共に絜鈎と書く。圖も尻尾が圖卷と山海經圖が似ているので、圖卷はどちらかを離形にたゞも考へられる。圖卷絜鈎を「けいこん」としたのは誤讀。「しつえき」は圖本、圖會「疾疫」、山海經圖「疫」。圖本、圖會に「磜山(中略)有鳥焉其狀如鳧而鼠尾蒼登木名曰絜鈎見則國多疾疫」とあり、山海經圖には「磜山(中略)有鳥焉其狀如鳧而鼠尾蒼登木名曰絜鈎見則其國多疫」と。「鳧」は「カモ和名ケリ」。圖卷の鳥は水かさある水鳥であり、鳧の描寫としては本文に忠實に描かれてゐる。「絜」と「潔」は通字。「しつえき」おはしと書いた圖卷から考へるに、底本を使い、本文に忠實に作畫したことを考慮すると、圖本、圖會が圖卷の底本であろう。ただし、山海經圖を見て圖卷が描かれていた可能性は否定できぬ。

16 神陸

この獸身の神は山海經圖に「昆侖之丘（中略）、神陸吾司之（法略）、其神狀虎身而九尾、人面、虎爪、是神也。司天之九部及帝之囿時」とあり、圖本、圖會には「崑崙之丘有天帝之神曰神陸、一名堅吾、其狀虎身人面九首、司九域之事」とある。山海經圖は神陸各、圖本圖會は神陸、となつており、圖卷の底本は圖本か圖會であらう。圖卷の「たり」は「神たり」の意か。「しんろく」は「神陸」の讀み、「ろく」は吳音。山海經圖の圖は九尾にまつている。

17 鵲神

山海經圖に「雜山中略）其神狀皆鳥身而龍首、其祠之禮、毛言擇牲、取其毛也。周官曰、陽祀用騂牲之毛、用一璋玉、瘞」とあり、圖本、圖會は「鵲山之神、其狀鳥身龍首、古者祠之禮、用璋玉、以獻」とする。圖より判りて圖卷は圖本か圖會か雛形である。

18 畢方鳥

山海經圖に「有鳥焉、其狀如鶴、一足赤文、青質、而白喙、名曰畢方、其鳴自叫也」とあり、この鳥の居る所は「章莪之山」である。圖本、圖會は「義章山有鳥狀如鶴、一足赤文、白喙、名畢方、見則有青、尚書實云、漢武帝有獻獨足鶴者、人皆以為畢方、東方朔奏曰、山海經云、畢方鳥也、驗之果是」とす。「義章山」、「東方朔」等より判りて圖本、圖會を底本としたものである。尚書實は「尚書言故實」という書物である。唐の李紱の撰に在る。尚書故實によると「漢武帝時嘗有外域獻獨足鶴、人皆不知、以為怪異、東方朔奏曰、此山海經所謂畢方鳥也、驗之果是、云云」叢書集成新編(8312)とあり。

19 玄鶴

圖本、圖會が底本であらう。「雷山有玄鶴者、粹黑如漆、其壽滿三百六十歲、則色純黑、王者以音樂之節、則至、昔黃帝習樂於崑崙山、有玄鶴飛翔」とある。

20 鸞鳥

圖本と圖會は珍しく詞書と異にする。「女床山有鳥、狀如鸞、玉乘畢、備身如雉、而尾長、名曰鸞、見則天下太平、周成王時、西戎來獻、(圖本)とある。山海經圖に「女林之山下、路有鳥焉、其狀如鸞、而五彩、文可翬、似雉、而大、長尾、或作鸞、鸞、屬也、名曰鸞鳥、見則天下安寧、舊說、鸞似鸞、瑞鳥也、周成王時、西戎獻之」と見える。圖卷の圖は圖本に近い。圖卷の一天下たいらかなり、は圖本「天下太平」、山海經圖「天下安寧」と比較すると、圖本が圖卷の雛形と考えられよう。

21 比翼鳥

この鳥は畫像石にも見られる。山海經圖は「鸞鸞」といい、郭璞の法に「比翼鳥」と見える。海外内經に「結匈國あり、比翼鳥が見えるが、圖はない。圖本、圖會に「結匈國有比翼鳥、爾雅云、南方有比翼鳥、不比不飛、謂之鸞、注云、似鳥、青赤色、一目一翼、相得乃飛、王者有孝德、于幽遠、則至」と、圖卷の鳥の首、鳥に近い。本文をよく讀んで描いたものであらう。圖本圖會が雛形であらう。

22 跖斯

山海經圖は跖斯を跖斯とする。圖本圖會は跖斯。圖卷の雛形は圖本が圖會であらう。「灌題山有鳥、狀如雉、反面、見人、乃躍、名曰跖斯、其鳴自呼」と。「反面」は山海經圖は「人面」とし、圖も人面となっている。

23 強良

圖本、圖會に「天荒山北極外有口銜蛇其狀虎首人身四蹄長肘名強良」とあり、山海經圖には「大荒之中有山名曰北極天樞（平略）又有神噉銜蛇操蛇其狀虎首人身四蹄長肘名曰覆良」とある。圖本、圖會の「有口」は山海經圖「有神」とある。圖卷と圖本及び圖會の共通點は「天荒山」「強良」と蛇を持つていないこと。圖卷の底本は圖本と圖會であろう。

24 神魁

山海經圖は神魁という。圖本や圖會は圖卷と共に神魁である。「剛山多神魁亦魑魅之類其狀人面獸身一手一足所居處無雨」とあり、山海經圖に「剛山平略曰是神魁醜亦魑魅類也音壯回反或作魁其狀人面獸身一手一足其音如欽欽亦吟字假音」とある。圖卷の醜形は圖本、圖會である。「醜は郭璞注の壯回の反切によれば *Chai-moi-tai* 和音「タイ」である。

25 奢尸

圖卷と共に圖本、圖會は奢尸と表記している。「奢尸奢尸之神名在大人國北獸身人面大耳珥兩青蛇以蛇貫耳云肝俞之尸」とある。山海經圖に「大人國中略奢比之尸在其北」神名、獸身人面大耳珥兩青蛇珥以蛇貫耳也音爾一日肝俞之尸在大人北」とある。

26 燭陰

この蛇身の鍾山之神は圖本、圖會を醜形として言われている。「北海外鍾山有神名曰燭陰視爲晝瞑爲夜吹爲冬呼爲夏不飲不食自息氣也則爲風身長百里其狀人面龍身赤色居鍾山之下」と。上の傍線部分が圖卷の「みる事なるたりなく事よるたりのますくらはすしてそくも也」に當る。

27 帝江

圖本、圖會に「天山有神、形狀如鰲、背上赤黃如犬、六足四翼、混沌無面目、自識歌舞、名曰帝江」といふ。山海經圖では「天山中路有神焉、其狀如鰲、黃鬣、赤如丹犬、體色黃而精光赤也、六足四翼、渾敦無面目、是識歌舞、實惟帝江也（以下注略之）」とある。圖卷「自志よく歌舞す」とは圖本、圖會の「自識歌舞」を指す。この怪奇な神について郭璞は注して「夫れ形全、無き者は則ち神自然に靈照（靈が現われも）。精見はる無き者は則ち闇に理を會す、其れ帝江の謂か」とする。

28 相柳氏

この九首の蛇身の人物は山海經圖では相柳氏と云い、圖本圖會では相抑氏と稱する。圖卷は圖本、圖會の説を採用している。「相抑氏、崑崙之北、柔利之東、有相抑氏者、共工之臣也、九首、人面、蛇身、青色、不敢北射、畏共之臺、臺四方隅盡蛇虎之形、首向南方」とあり。圖卷「にうり」とあるのは「柔利」中の「柔」の吳音、ニウの慣用音ニウ（ニウウ）による。

29 嬰纒

この蛇神は山海經圖では肥纒と云い、圖本、圖會では嬰纒と稱す。圖卷はこの嬰纒を誤つて嬰纒としたのであろう。圖本に「陽山有神、蛇名曰嬰、音非、纒、一首兩身、六足四翼、見則其國大旱、湯時見出」と。圖會もほぼ同じ。「嬰音非、纒」の嬰は音が非であるので「ひ」と讀む。嬰は肥の誤字である。山海經圖では「大華之山中略」有蛇焉、名曰肥纒、六足四翼、見則天下大旱、湯時此蛇見于陽山下、復有肥遺蛇、疑是同名」とある。圖卷は圖本、圖會を雛形にしていると考えられる。「丸めんひてりす」は九年間ひてり言ふした意であらう。

30 龍

鍾山之神龍は圖卷とその雛形である圖本、圖會は「龍」と書く。「鍾山之中有神名曰龍其狀龍身而人面」とある。山海經圖には「曰鍾山其子曰龍此亦神名之爲鍾山之子其類皆見歸藏啓筮其狀如人面而龍身啓筮曰龍山子青利人面馬身亦似此狀也」とある。

31 白澤

この白澤は古來よく知られた動物である。圖卷は圖本、圖會を雛形にしている。「白澤東望山有澤獸者一名曰白澤能言詔王者有德明照地遠則至昔黃帝巡狩至東海此獸有言爲時除害」と東望山を「とうまう」と圖卷が讀んだのは吳音による。また、「鳥の語」とあるのは、「有鳥」の爲字を鳥字に讀み誤ったものか。

32 騶虞

山海經は騶音という。圖本、圖會は「林氏國在海外有仁獸如虎五采尾長於身不食生物名曰騶虞乘之曰行千里六範云紂囚文王其臣闕天求得此獸獻之紂大悅乃釋文王」とあり。圖卷「しやくもん」とは「釋文王」の傍線部分を誤解したものであろう。「はろぶ」は紂が後に文王に殺されたことに想像が及んだものであろう。

33 窮奇

牛に似た動物。圖本、圖會が雛形と考えられる。「邽山音圭有獸狀如牛騾尾增毛音如窮奇窮乃助不直者名曰窮奇亦能食人」とあり。圖卷「ていざん」は「邽山」の誤讀。「いとひけ」は「増」を指す。「いぬかみあへ」は「嗥狗の狗と次の句の鬪を結びつけて誤解したもの。たすくは助、すくせらね」は「不直者」を指す。文の誤讀から釋文に混亂を來した。

34 類

山海經圖に「獸之山 豈音蟬(中略)有獸焉其狀如狸而有鬚其名曰類(注略之)自為牝
牡食之不妬(注略之)」とあり。圖本圖會には「獸受山有獸如狸有鬚名曰類。自為牝牡
食之能不妬」と見える。圖卷のだしゅ山は「豈受山を指す。豈字に「タン」の讀みはあるが、
山海經の郭注に「たかい」セシと讀まれた。圖卷の詞書の作者が『山海經』を讀まず圖本圖會
を底本にしたためてであろう。「釋」がいかなる動物か不明。山海經圖は狸とする。この狸は狸とも書
う山猫の一種であろう。『山海經廣注』の吳任臣の注では「靈狸」という説約に類する物との説
を示す。

35 朱獮

この狐屬の動物は圖本圖會に「獸山有獸狀如狐而魚鬚名曰朱獮其鳴自呼見則
圖有大恐」とあり。圖卷に「大に恐れあり」とあるのは圖本圖會「有大恐に對して山海經圖は
「有大恐とする。「魚鬚」に對して「魚鬚」である。

36 蕤

几山の蕤という動物は山海經圖では「間隣に當る。几山(中略)有獸焉其狀如蕤黃身
白頭白尾名曰間隣音隣見則天下大風」と。圖卷はこの文では書けない。圖本圖會に「蕤
蕤狀如蕤黃身白首白尾見則大風」とある。几山の語は見えぬが、圖本圖會はその系統の
圖を雛形にしていること疑いないのである。

37 猛槐

山海經圖は五槐圖本圖會は猛槐と書く。「譙明之山有獸狀如狸亦毫音猪也其一擊耳

如「龍」音留鼠、名曰猛槐、圖之可以禦凶、とあり、「類」について圖本、圖會は「會猪」と注し、郭璞注は「會猪」(やまあらし)とする。會猪がどのような動物か知らず。

38 駢

駢という動物について圖卷の詞書はあまりに短い。圖本、圖會によると「中曲山有獸狀如馬、白身黑尾、一角鋸牙、音如振鼓、能食虎豹、名曰駢、佩之可以禦凶」とある。

39 飛鼠

飛鼠の居る「天池山は圖卷の離形と考えられる圖本、圖會も天池山である。山海經圖は「天池之山」である。圖本、圖會に「飛鼠、天池山有獸如兔而鼠首、以其背毛飛、飛、即仲名曰飛鼠」と見える。山海經圖では「天池之山(中略)有獸焉其狀如兔而鼠首、以其背毛飛、飛、即仲名曰飛鼠、飛、飛、即仰」と、其名曰「飛鼠」と述べる。圖卷「とふときんはすなはちのふ」は上の傍線の部分と一致する。翻字本の「ひう」は「ひう」すなわち「ひそ」とである。

40 罽

猿に似た罽は圖本、圖會に「罽、音余次山有獸狀如寫、音佛、長臂、善殺、名曰罽、許嬌反」と述べる。「罽次山」は山海經圖では「罽次之山」と寫し、山海經圖「罽」である。罽は大型の「さる」である。

41 赤狸

狸はネコである。圖本、圖會に「西海有赤狸、周文王囚於姜里、散宜生得之獻紂、遂免西伯之難」と述べる。

42 長猨

長猨

浮玉山の彘は山海經圖では虎に似た動物であり、圖本圖會では猴に似た動物である。圖卷はこの動物の形態を書かず。圖本圖會に「長彘 浮玉山有獸狀如猴四耳虎毛而牛尾其音如犬吠」名曰長彘食人見則大水」と言い、山海經圖には「浮玉之山(中路)有獸焉其狀如虎而牛尾其音如吠犬其名曰彘是食人」と述べる。山海經圖や圖書集成には長右という動物が出て来る。次にその圖を示す。

和刻山海經圖



南山經 秦之一帶 東南四百五十里曰長右之山無草木多水有獸焉其狀如馬而四耳其名長右因以名之其音如吟如入呻見則郡縣大水

圖書集成



山海經 長右之山有獸焉其狀如馬而四耳其名長右其音如吟見則其地大水 郭曰以山出此獸因以名之 任臣案圖贊曰長右四耳厥狀如猴實為水祥見則橫流彘虎其身厥尾如牛元覽云長右也博詭也四耳之獸也駢雅云狴狴長右舉父皆異屬也

山海經廣注



和刻山海經攬犬圖



43 天馬

この馬は唐代の「初志露摩國」、明代の「初志魯護斯國」すなわちホルムズ(Hormuz)より輸入された。

シヤ馬の一種である。幻福祿馬ヤハ駝鷄、分靈羊等が輸入されたと考えられる。大明一統志に見られる。このホルムスはペルシヤ今のイランのホルムズ灣岸の小島にある港から中國にも貢物として持ち込まれた。圖本圖會に「天馬馬成山有獸狀如白犬黑頭見人則飛不再翅翼名曰天馬其鳴自呼見則豐穰」と言う。「馬成山」吳音でありは「メジラセン」である。

44 羚羊 分靈羊 參照

圖卷には羊屬の動物が描かれているが、羚羊と靈羊は密接な關係がある。すでに北宋の史平寰宇記に安南の高石山に羚羊が棲むことが指摘されているが、後世の「大明一統志」にもその土産として「羚羊角 高石山出」一節、而中實(空洞)にさいさいと極堅能碎金剛石とこと述べる。おそらく圖卷はこの文にもとづき山羊あるいは綱目の麋羊の圖を參考にして作圖したものと考えられる。宋の陸佃撰の四庫雅言によれば「羚羊似羊而大角」と言い、綱目の麋羊の項には麋を羚に作るようにせり、兩者同じものとする。また山海經の羆と同類としている。圖本の圖會にも見える。山海經圖西山經ニ石(也)に「錢來之山中陸有獸焉其狀如羊而馬尾名曰羆羊。今大月氏國有大羊如羆而馬尾。爾雅云羊六尺為羆。謂此羊也。羆音針云云」と述べる。「鳥獸人物戲畫」の山羊の圖にもその原形が見られる。圖書集成歴代通考の傍線部參照

45 錢犬

この空飛ぶ犬はすでに指摘されているように誤字と誤讀が見られる。圖本圖會が圖卷の雜形である。「鮑犬 梁攬國有鮑犬周成王時獻之。鮑犬者露犬身高三尺有翼能飛」と。

46 耳鼠

「にそ」という讀みは吳音。詞書は圖本と圖會が異なる。圖本に「丹垂山有獸狀如鼠而兔首

麋鹿音相鳴犬以其聲飛名曰耳鼠食之不醉可以禦百毒と見える。傍線の部分か圖卷の文に使われている。耳鼠は「麋」すなわち「むらさび」。

夕福祿 夕天馬参照

『大明一統志』九十一に「勿魯普謨斯國（ホルムズ、今のイランの小島にある港灣都市）があり、福祿馬のことが書かれている。「似驢而花文可愛」と言う。昭和七年から十年に刊行された『大言海』の「ふろく福祿」の項には「三獸名形驢二似天黑白斑文アリ、今ノ斑馬ノ類ト云フ」として『大清一統志』を引く。文の内容は『大明一統志』に同じ。『日本国語大辞典』（昭和五十年九月刊）の「ふろく福祿」の項に曲亭馬琴の『椿説弓張月』（文化四年（一八一〇）同八年（一八一二）刊）と『大明一統志』を引用している。圖卷に描かれているホルムズから中國に將來された花模様のペルシヤ馬は冷枚の畫いに馬と同じような姿をしていると考えられる。馬琴が『椿説弓張月』に述べているように鹿の一種に「福鹿」が居るわけで「獲」もその一つであろう。圖を次に引用する。



單塗山有獸狀如白鹿前兩脚似人手
後兩脚似馬蹄四角名獲

胡文煥圖本



獲似獬豸而大色青黑能獲持人好捕騎長七尺人行健
走名曰獲獲或曰獲獲又名馬化何行遊婦女

三才圖會鳥獸

は未詳。
こわい鳥こく

48 靈羊 44 羚羊參照

圖會に「麋 麋似羊而大角圓銳好住山崖間夜宿以角掛木不着地其角號爲有神故能辟去不祥北人多食南人食之能充爲肥壯所侵」と述べている。大明一統志九十九卷魯謨斯圖に「土産 靈羊 尾大者重千餘斤行則以車載尾」と述べている。「福祿馬」と共に「くわいゑ國」に住んでいることになる。今考えられることは「魯謨斯圖」を「くわいゑ國」に相當する。

49 吼

この象に似た吼は清阮葵生の「茶餘客話」卷三十一獅吼に「明弘治己未六月西番貢獅一又畜二小獸一名曰吼形類兔兩耳尖小長尺餘獅作威時牽吼視之獅畏伏蓋吼溺著體即屬也吼猶獾又畏雄鴻比之喧高鳴吼亦畏伏」と述べる。この吼は上の文によれば兔に似ていなければならぬが圖卷の圖は象である。「漢語大字典」吼（四川辭書出版社湖北辭書出版社）に次のように述べている。「傳說中約一種形狀象兔的怪獸名」と。吼の形狀が兔に象る怪獸名と説明している。明の弘治己未三年（一四九二）に上貢された當時、このような解説がされていて「象」を動物の「象」と誤ったとすれば説明がつく。ここに引く「茶餘客話」は一般に清刊の十二卷本が流布しているがこれにはこの語は見當らず清光緒十四年（一八八八）刊の二十三卷補遺一巻本に依つたもの。吼の圖がこの客話ないしは明の弘治三年當時の資料によつて描かれたとするとその上限は弘治十三年我が足利時代の明應八年であり下限は光緒十四年我が明治二十二年となる。ただし中國で作られた圖卷の原本が想定できるのでこれを雛形として圖卷は時間やもつと降ることになる。我が圖卷は表具等から江戸前期成立と言えさうであるので單純

には結論は出せない。圖卷の「さいはん」は客話中の「西番」に當る。「犬志」は未詳。

50 猴

猴はさるである。「大明一統志」爪哇國（ニミシヤダグアイネオシア）に「猴（爪哇）國中、山多猴、不
畏人、呼以實實之聲、即出或投以菓實、則其大猴先覺、土人謂之猴王、猴夫人、
食菓、群猴食其餘」と述べる。圖卷「くわつあこく」は「爪哇國」を讀み誤ったものである。

「せううんのこゑ」とは「實實之聲」の讀み誤り。「さいあはけ」は未詳。「あつの大こく」は尺
猴二をいう。圖卷は一統志を使って作圖したものであろう。

51 羆

旬（洵）山に住むという羊形のこの動物は、圖本、圖會に「旬山有獸狀如羊而無口黑色名
曰羆、其性頑狠、人不可殺」と見える。山海經圖「不可殺」に注して「羆氣自然」とする。
氣を自然から受けているので殺すことができないというのである。「無口」について廣注の吳任臣
は諸説を紹介しているが、自然の氣を受けて生きているので口は不要ということであらうか。

52 自鹿

「大明一統志」九千安南に「土產（中略）自鹿 晉元康初、自鹿見交趾武寧縣。宋、元嘉
末、交趾獻自鹿」と見える。交趾は今のベトナム北部、トンキンハライ。

53 厭火獸

火を口から出すという厭火獸は圖本、圖會に「厭火國有獸身黑色、火出口中、狀似獼
猴、如人行坐」と。「厭火」を「けんくわ」と讀むは誤り。

54 飛黃

この馬の一種の動物は圖本圖會に「乘黃西海外乘黃馬狀如狐角乘之」と述べる。ここに見る乘黃は二角。山海經圖も二角である。「自民之國(中略)有乘黃其狀如狐其背上角乘之壽二千歲周書曰自民乘黃似狐背上有兩角即飛黃也淮南子曰天下有道飛黃伏身」と。乘黃の吳音は「じようわう」である。圖本圖會の圖は頭上に一角を戴くが、圖卷や山海經圖は背上に二角を乗せる。圖卷の雜形は山海經圖と言えらる。

55 滑(猾) (表(表) 象)

ここに見ゆる人面猿は圖本圖會に「猾(猾) 堯光山有獸狀如獼猴人面鬚鬣穴居冬蟄名曰猾表音如獼木聲見多怪役」と述べる。傍線の語圖卷の誤讀。

56 酉耳

この首耳は綱目においては虎に似ているとして虎屬の圖を不す。圖本圖會では「英林山有酉耳周成王時曾獻之尾長於身食虎豹王者威及西夷則此獸至」と言う。傍線の語「首耳は吳音は「ジユニ」、漢音「シラジ」。英林山を「英のい山」と誤讀。圖卷の作者は吳音を混えて讀むとこれまでも多い。

57 龍(龍) 螭

九首九尾虎爪の狐屬の動物。圖卷の圖柄は狐といふより虎である。圖本圖會に「龍螭見麗山有獸其狀如狐而九首九尾虎爪名曰龍螭音如嬰兒」と見ゆる。傍線「」は誤讀。

58 九尾狐

九尾狐は瑞獸であり妖獸でもある。圖本圖會に「青丘國在海東之北有狐四足九尾波郡亦相杵子出征嘗獲一狐九尾」と。圖卷の釋文「相杵子」は原文の詞書の通とあれば「相杵(杵)」。注

海外東經 卷之九



青龍山
毛尾圖九の九尾狐

60 猛豹

熊に似て毛に光彩あり、蛇や銅鐵を食すといふ動物は圖卷や山海經圖、圖書集成は豹の形をしている。圖本や圖會では鼠か兎に見える。「猛豹南山有獸名曰猛豹似熊而毛彩有光澤其食銅鐵」と。山海經圖では「南山中路獸名猛豹猛豹似熊而小毛淺有光澤能食蛇食銅鐵」出芻中「豹或作虎」と見える。「豹」字は豹と通用字。「豹」を「豹」と讀み、別の動物と考へる説もある。

61 葱龍

圖本圖會に「葱龍」竹過山有獸名曰葱龍狀如羊亦鬚而黑首」と。竹過山、山海經圖では「竹過之山」となっている。圖卷は「竹」を「箒」字とでも讀み誤ったが、「龍」も「龍」に引かれての誤讀。黑首の語は山海經圖には無い。

九尾狐

子であらう。山海經圖、郭璞注は「相椰子」である。圖本圖會の「波都」は「波都」の誤りか。
 九尾狐 海の西る馬。圖本圖會に「騰踈帶山有獸狀如馬首有角可以鑄石名曰騰踈」と。山海經圖には「帶山(中略)有獸焉其狀如馬一角有鑄言不角有甲錯或厝諸本作厝」其名曰騰音歡疏可以辟火」と述べる。帶山を圖卷では「ていせん」とするは誤讀。錯は角がヤスリ状になっていることであらう。圖卷「二角」であるが誤りであらう。

62 旌牛ほうぎゅう

この「ヤフ」という動物、圖卷では「るい山に居ることにせうている。山海經圖では西山經の翠山、
や北山經の潘侯之山に棲息している。圖本、圖會は「旌牛、侯山有獸狀如牛、其足有四節而
毛長、名曰旌牛」と述べる。この侯山は内容から判して山海經圖の潘侯之山と同じである。圖卷の詞
書があまりにも簡略で何故に「るい山」にせうたか解らない。「旌」を「旌」と讀み違えたのも例の如し。

63 狎せ

「狎」という豹に似た動物を圖卷で「てやう」と讀んだのは吳音による。「てやうらくこく」未詳。圖本
圖會、山海經圖、圖書集成いずれも圖卷とは同じ圖柄であることから考へ、これの雜形と言
えよう。圖本、圖會に「狎、狎狀如、亦豹、五尾、角、音如、擊石」と述べている。

64 青熊せいじゆう

「熊」字は誤字。圖本、圖會に「青熊、青山中、有青熊者、周成王之時、天下大旱、東夷之人居
何獻也」と述べる。圖卷の圖柄は猿に見える。他は熊である。

65 天狗

「天狗」の「狗」を「く」と讀むのは吳音。圖本、圖會に「天狗、陰山有獸狀如狸、白首、名曰天狗、
念蛇、其音如猫、佩之、可以禦凶」と述べる。圖卷の「口ろんく」は「曰天狗」を誤って書いたものであ
らう。「佩」の語、山海經圖には無い。圖卷の圖柄は山海經圖に似ている。

66 當庚たうけい

脈の形をしたこの動物は圖本、圖會と圖卷が共に「當庚」と書く。三者の關係を知ることが出来る。
圖卷、圖會に「當庚、欽山中、有獸狀如脈、名曰當庚、其鳴自呼、見則天下大穰」と述べる。圖

柄は圖卷と山海經圖と之面圖書集成が豚、圖本圖會が、類の細長くて鼠のような形をしてい
る。詞書口圖本圖會が、雜形であろう。

67 旌馬

この動物馬の形をしていて四つの節がある。圖本圖會に「旌馬 南海外有旌馬狀如馬而足有
四節垂毛即穆天子傳所謂毫馬也。在巴蛇西北高山之南」と見える。圖卷の「所のいひ」は
「所謂を指し、「はじや」は「巴蛇」である。圖會は「巴地」とする。

68 獠

これに屬する動物、山海經圖「翼望之山(中略)有獸焉其狀如狸、一目而三尾、名曰獠、音歡
或作原、其音如拿、日聲、言其能作百種物聲也、或曰拿、百物、名亦所未詳、是、可以御水、凶服
之、已瘴、黃瘴病也、音且」と述べる。圖本圖會に「獠、翼望山有獸狀如狸、五尾、名曰獠、又
貉、類、其音奪、眾聲、食之、可以治瘴」と見える。山海經圖では「獠」という動物となっている。圖
卷の雜形は圖本圖會及び山海經圖であろう。

69 玄獠

くろいむじま。圖本圖會に「溱瓏侯澤有玄獠、與貉同音、獠者穆天子傳曰天子獵於此澤、
得玄獠以祭河宗、周禮曰獠、獠、則死此地、氣使然也」と述べる。圖卷「こんしうたく」は「溱瓏
澤に當るが「瓏」字未詳。「げんしやう」は「玄獠」の誤讀。「ほくそん」つたへては「穆天子傳」とい
う書名を誤解。「ほくたくをかりして」は「獵於此澤」を誤讀。

70 天犬

天門山の赤犬は山海經圖では金門之山に棲息している。圖本圖會に「天門山有赤犬名曰天犬

其所現處。珽有兵乃天狗之星光飛流注而生所生之日或數十其行如風聲如雷如電
 吳楚七國反時嘗吹過梁野」と見える。圖卷の「あるしうへいのことありは「珽有兵」を指している
 が「とう」とは何か未詳。「とひるちうしては「飛流注而生」と讀んだらしい。「たうりやう山になく
 は「嘗吹過梁野」を指し、「たう」は「嘗」を音讀し「りやうさん」は「梁野」「なく」は「吹」を讀んだる
 のであらう。

71 兕

一角の野牛の兕は圖書集成の「山海經」からの引用文により明らかである。雛形は圖本、圖會である。
 「兕 禱過山多兕狀如野牛青色一角長三尺餘似馬鞍善觸身重千斤其皮堅厚可以制
 鏡」又「圖會のみ」又曰兕似虎而小不啞人夜間獨立絕頂山崖聽泉聲好靜直至禽鳥鳴時天
 將曉方歸其巢」と見える。圖卷「たうしう山」とするのは「禱過山」の誤讀。「身にふる、千きんをか
 こめて」は「善觸身重千金」に當るが圖では明解でないが角が身に觸れる意であらう。重さ千斤
 (明代では約五九〇八キログラム)は兕の體重である。圖會のみの部分に使われていない。使われていない部
 分を省略したのではなからうか。それとも圖本を使ったかは未詳。

72 羴

羴は一角一目の羊。山海經圖は「羴羴」。圖本圖會に「羴羴羴羴有獸狀如羊一角二目
 在耳後名曰羴其鳴自呼羴音乎沓之水出焉云云」と見える。圖卷の「大焉山」は「長嶽山」
 の誤讀。圖本目の描き方など問題がある。

73 狡犬

山海經圖に「玉山(中略)有獸焉其狀如犬而豹文其角如羊或作羊其名曰狡其音如吠犬」

見則其圖大穰。晉大康七年。邵陵扶夷。獲得一獸。狀如豹。文有兩角。無形。兩脚。時人謂之。然疑非此。と述べる。圖本圖會に「狡玉山有獸名曰狡犬狀而豹文牛角而大聲曰口黑身

見則天下大穰。韓子云穰歲之驗也」と。圖卷「いぬの聲」は「山海經圖」吠犬とし、圖本、圖會は「大聲」とする。おそろく「犬」を「犬」と誤りと考えられる。

74 狒狒

如人。之「狒狒」と言う。如人と言ふより狒狒の方が通りがよい。圖卷の「東陽國」は「山海經圖」には見えぬが、圖本や圖會には見える。「如人東陽國有寓寓爾雅作狒狒狀似人黑身披髮見人則笑笑則唇掩其目郭璞云狒狒性獸披髮狸足獲人則笑唇蔽其目終乃號吠反為我戮」と。披髮は髪を振りまぶすこと。

75 獺

熊に似て象の鼻の形をした動物。圖本圖會に「南方山谷中有獸名曰獺音陌象鼻尾目牛尾虎足身黃黑色人履其皮辟其形可辟邪故食鋼鐵不食他物」と述べる。現實の獺とは程遠い姿をしているが、圖卷の圖は最も現實離れをしている。詞書(忠實實に書いたと言えらる。

76 龍馬

圖本圖會に「龍馬玉河出龍馬者仁馬也高八尺五寸長頸豁上有翼旁有垂毛踏水不沒聖人能用人則天不愛道地不愛寶故河出龍馬焉」と述べる。圖卷の龍馬は圖會に似ている。圖本の圖は顔面も馬の形をしている。

むすび

『怪奇鳥獸圖卷』の典據等を考證し來つて、最初考えて來たことと相違するところを生じて來た。先づこの圖卷が圖本や圖會等を參考にして作圖されたと考えていたのであるが、どうも圖卷が直接中國の資料を使って作圖したのではなく、すでに出來上つた圖と漢文による讚文(詞書)が存在して、この原畫と讚文を轉寫翻譯されたのではないかと考へるに至つたのである。その理由として讚文(詞書)の誤讀の多さと稚拙な譯文が指摘できる。讚文と作圖が同一人であるのか別人であるか判断できないが、圖本や圖會を作圖の材料にすることは容易であるとして、11の「馬鷄」における『大明一統志』とか49「吼」における『茶餘客話』とか、必の羚羊における『星槎勝覽』等を採り出して材料とし得たか疑問が浮かぬ。

そこで、圖卷の作者はどのような人物であつたか興味を持つるのである。考證の過程において、吳音が多用されていることを指摘した。類推に過ぎぬが、あまり學の深くない畫僧が考えられ、この度は畫史は省略するが、機會を見て調査してみたい。

圖卷に描かれた鳥獸や異鳥獸及異人物等は一般の繪畫と異り、中國宋以來の博物畫やシーボルト等の博物畫の他狩野派や圓山派の繪畫等を背景に江戸博物學が生れてゐる。このような土壤の中から生れたものがこの圖卷であろう。その製作年代も江戸前期と推定したが49「吼」の原據が『茶餘客話』(光緒十四年(一八八八)明治三)以前に遡ることが出來なかつたら、隆分時代を下方修正しなければならぬ。ただし「吼」が西番から上貢されたのが明の弘治十二年(四九二九)我が足利時代の明應八年であり、當時評判になつたのであるから、別の記録からこの圖が描かれたことが十分考えられる。また創作上重要な資料である『三才圖會』が明の萬曆三十七年(一六〇九)我

が江戸時代慶長十四年であり、これ以後遠からず原圖卷が作られ、中國より輸入されるのがそれ以降になるので、これを受けて現四怪奇鳥獸圖卷が作られたことになる。したがってこの圖卷の製作年代の上限が「三才圖會」以降とされ程遠くない時代に設定できるのであるが、下限は江戸前期としてもよいのではないかと考えられる。

四鳥獸人物戲畫(平安時代後期(十世紀末(日))には「山海經」の繪圖の影を残すが、「山海經」の繪圖は中國の明以降のものかまことに作品は残っておらず、戲畫のよきな肉筆の作は貴重なるものである。もし圖卷の作者がこれを見ることができたこととすると、作品に影郷習を受けたことになる。ただこれが實證されたいわけなく、今後の課題である。

考證に使った資料の書誌

- 瀛涯勝覽一巻 明 馬歡撰 永樂十四年(一四一三)序刊 叢書集成新編六八冊(④駝鷄)
- 星槎勝覽一巻 明 費信撰 正統元年(一四三六)序刊 同 右
- 大明一統志九十巻 明 李賢等奉勅撰 天順五年(一四六二)四月成 明 嘉靖三十八年(一五五九)刊 日本正徳三年(一七一三)三月刊 京書林弘章堂 山本長兵衛 昭和三十三年十一月 汲古書院刊
- 見物 五巻 明 李 蘇撰 李 錫齡 孟 熙校訂 萬曆九年(一五八二)七月序刊 光緒三二年(一八九六)長沙重刊本 宏術書院藏版 叢書集成新編 四十四冊(⑦馬鷄)
- 本草綱目 五十二巻 明 李時珍撰 明 李 建中圖 萬曆十八年(一五九〇)王世貞序刊

金陵胡承龍刊

○本草綱目五十二卷圖三卷等 明李自珍撰 明·錢蔚起校 寬文九年(一六六九) 京風月莊左衛門刊

○新校正本草綱目五十二卷圖一卷本草圖四卷等 明李自珍撰 附稻生義撰 正德四年(一七七四) 京·唐本屋八郎兵衛等刊 合英堂豫章堂藏版 私藏

○重訂本草綱目五十二卷 光緒十一年(一八八五)六月 表紹棠序刊本 民國十二年(一九一三)刊 鼎文書局

○新刻山海經十八卷 山海經圖(上六圖、下三四圖) 明·胡文煥撰 明萬曆二十一年(一五九三)序刊 格致叢書刻本 一九九四年十月刊 中國古代版畫叢刊二集 上海古籍出版社刊

○山海經釋義十八卷圖一卷 明·王崇慶(七十五圖)復合圖(二冊) 萬曆十五年(一五九七) 蔣一葵堯山堂刻本 私藏

○山海經圖十八卷 明·蔣應鑄畫 明刊

○同江戶時代刊 私藏 次頁に釋義と山海經圖(和刻本)を對照する。

○三才圖會二卷 明·王圻撰 王思義續編 萬曆三十七年(一六〇九)序刊 民國十九年(一九一〇)台北成文出版社刊

○山海經圖讚二卷 附補遺 晉·郭璞撰 明·沈士龍·胡震亨校 明刊

○山海經箋疏十八卷圖讚一卷等 晉·郭璞傳 清·郝懿行箋疏 嘉慶十四年刊 私藏

○山海經廣注十八卷圖表靈祇異域獸族羽禽鱗介各一卷 清·吳任臣注 清·康熙六年(一六六七)

山海經釋義

九尾狐



灌灌



南
山
經
卷
之
一
第
四
圖

○灌灌

和刻本山海經圖

南山經



卷之一

五

○九尾狐

○青鱗

鵬鵠

○赤鱗



南山經

卷之一 第三圖

六

六七) 九月序刊 秘藏

○ 明史叢書三〇卷 清·王鴻緒奉敕撰 清·雍正元年(一七三三)上進本 敬慎堂刊

◎ 同右覆刻本 安積信序 嘉永六年(一八五三)八月 高田藩刊 昭和四十八年十一月 汲古書院刊

○ 内府全圖(古今圖書集成圖纂)卷三三 異獸卷三十四 異禽 異龜 異蛇 異魚(以上禽蟲部) 内閣文庫藏

○ 古今圖書集成 一萬卷 清·康熙年中(一六六二—一七三三)敕撰 蔣廷錫補 清·雍正四年

(一七三三)序刊(銅活字) ◎ 同 民國五十二年(一九六四)台北文星書局刊(〇冊附地圖 一冊第六十冊 神異典 第六十三冊—六十四冊 禽蟲部(含異獸部 異禽部))

古今圖書集成圖纂 三十三—三十四

古今圖書集成

60/310中

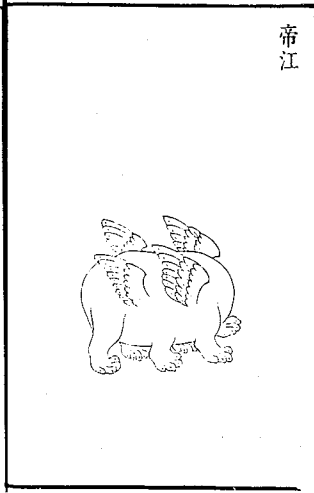
文星版は戦前

中華書局版)

民國二十三年(一九三三)

四)の影印本

帝江



帝江神圖



◎ 茶餘客話三卷 清阮葵生撰 光緒十四年(一八八八)刊 一九六三年 學術名著台北世界

書局刊 49吼

○ 椿説弓張月 三十卷 曲亭馬琴撰 文化四年(一八七)〜文化七年(一八〇)刊 ◎ 同日本古
典文學大系 昭和三十三年 岩波書店刊 (分福祿)

○ 山海經存 九卷(各卷附圖) 清王紱撰 清光緒二十一年(一八九五) 秋樵立雪齋原本上石本
私藏

27 山海經廣注

4



帝江 狀如黃囊赤如丹火六足
四翼無面耳居天山

42

帝江

山海經存



參考資料

この參考資料は別表と別圖とから成る。一章『怪奇鳥獸圖卷』の典據考證¹⁾における考證は總てこの別表と別圖を基礎に行つてゐる。

凡例

別表に用いた資料は次のように略號で示した。

- 1 『山海經』略號ではないが、圖卷における『山海經』との關係を示す。圖卷7の精衛は『山海經』の北山經の北次三經に記事があることを示す。
- 2 『圖卷』は『怪奇鳥獸圖卷』の鳥獸・人物(神)の名稱を示す。
- 3 『圖讚』は『晉の郭璞の』『山海經圖讚』に見える鳥獸・人物(神)の名稱を示す。頭に記す數字は底本にした清・郝懿行撰の『山海經箋疏』の頁を示す。使用した影印本は民國二十三年(一九二七)四月第三版、藝文印書館本である。嘉慶原本は必要に応じて参照した。書誌参照
- 4 『胡文煥圖』は明・胡文煥の『山海經圖』を指し、鳥獸・人物(神)の名稱を示す。頭の數字はこの圖の配列順による通し番號である。考證では『圖本』と略稱した。書誌参照
- 5 和刻『山海經圖』は明・蔣應鑄畫の『山海經(附圖)』の和刻本の圖の所在と本の所在を示す。『聖姫の』『山(及)圖』は卷(南山經)の十三丁表に圖があり、十三丁表六行目に本文があり、6圖は全巻通して第六圖と版心(に)記されたものを示す。『山海經圖』と略稱。書誌参照
- 6 『三才圖鳥獸』は明・王圻の『三才圖會』卷(六)鳥獸及び人物の卷丁、頁の所在を示す。『三才圖鳥獸』は『鳥獸』卷鳥獸、三十三丁表二八九頁上、八神陸一人物十四卷、三十三丁裏八七六頁上を示す。考證では『圖會』と略稱。書誌参照

7 『圖書集成』は、『古今圖書集成圖纂』と、『古今圖書集成』の略稱。27 帝江神、31、32、33 は圖纂の三十三卷異獸、30 は配列順の通し番號。「60、30」は底本の第六十冊三〇〇頁の中段を指す。

8 『山海經廣注』の鳥獸・人物(神)の名稱の頭の數字は配列順の通し番號。書誌參照

9 『山海經存』45、2 は配列通し番號45圖の二番目を指す。左の圖參照。書誌參照。



10 その他の欄には、『本草綱目』(綱目と略稱)、『大明一統志』、『見物』、『茶餘客話』等を記入。書誌參照

別圖

最初に『怪奇鳥獸圖卷』を配し、原則として圖本・山海經圖・圖會・圖書集成の順に配し、『大明一統志』、『見物』、綱目を適宜配した。廣注の圖は圖表の空間に挿入した。

(三〇、三十一、三十二)

別表

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
西山經三	海外北經	海外東經	大荒北經	北山經一	海外南經	西山經二	西山經一	南山經一	西山經三	西山經二	東山經三	南山經二	西山經一	西山經二	西山經三	中山經一	南山經一	西山經一	西山經二	西山經三	數斯	紫鼠	紫鼠	紫鼠	紫鼠	精衛	山海經三
帝江	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	罔象	精衛
49% 帝江	44% 罔象	200 罔象	29% 罔象	28% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	49% 罔象	
97 帝江	76 罔象	123 罔象	67 罔象	79 罔象	82 罔象	43 罔象	119 罔象	72 罔象	18 罔象	81 罔象	95 罔象	115 罔象	87 罔象	94 罔象	86 罔象	117 罔象	109 罔象	100 罔象	102 罔象	80 罔象	80 罔象	80 罔象	80 罔象	80 罔象	80 罔象	80 罔象	
二 帝江	八 罔象	九 罔象	三 罔象	三 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	二 罔象	
人物帝 37a 78% 27神	人物帝 34b 87% 27神	人物帝 36c 87% 27神	人物帝 38d 87% 27神	人物帝 39e 87% 27神	人物帝 40f 87% 27神	人物帝 41g 87% 27神	人物帝 42h 87% 27神	人物帝 43i 87% 27神	人物帝 44j 87% 27神	人物帝 45k 87% 27神	人物帝 46l 87% 27神	人物帝 47m 87% 27神	人物帝 48n 87% 27神	人物帝 49o 87% 27神	人物帝 50p 87% 27神	人物帝 51q 87% 27神	人物帝 52r 87% 27神	人物帝 53s 87% 27神	人物帝 54t 87% 27神	人物帝 55u 87% 27神	人物帝 56v 87% 27神	人物帝 57w 87% 27神	人物帝 58x 87% 27神	人物帝 59y 87% 27神	人物帝 60z 87% 27神	人物帝 61aa 87% 27神	
4 帝江	12 罔象	14 罔象	5 罔象	20 罔象	106 罔象	100 罔象	101 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	3 罔象	
42	142	147	27	184	60	31	27	38	8	34	89	14	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	
大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	大明(統志)元朝鮮國157	
網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	網目四正 1402	

別圖

(1) 精衛せいゑい



胡文煥圖本

80 精衛

發鳩山有鳥狀如鳥白首赤喙名曰精衛其鳥自呼是神農之少女名女娃也昔遊東海溺而不返化為精衛常收西山之木石以填東海



和刻山海經圖



北山經 又北二百里曰發鳩之山今在上党郡 其上多柘木 有鳥焉其狀如鳥文首白喙赤足名曰精衛其鳴自 訖 三才圖會 鳥獸鳥

○青衛之羽 儀禮之羽 表祀鳥 燕父鳥也

精衛



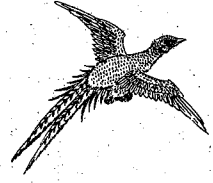
發鳩山有鳥狀如鳥白首赤喙名曰精衛其鳴自呼是神農之少女名女娃也昔遊東海溺而不返化為精衛常收西山之木石以填東海

圖書集成

博物彙編禽蟲典第五十三卷異鳥部

63/51中

精衛圖



山海經 北山經 發鳩之山有鳥焉其狀如鳥文首白喙赤足名曰精衛其鳴自訖是炎帝之少女名曰女娃女娃遊於東海溺而不返故為精衛常檣西山之木石以堙於東海 任臣按述異記炎帝女溺死東海中化為精衛一名誓鳥一名冤禽一名志鳥俗名帝女雀學海注云有鳥如鳥文首白喙赤足曰精衛精衛常取西山之木石以填東海五侯爵曰精衛無雄偶海燕而生風贊曰炎帝之女兒為精衛沉形東海靈爽西邁乃衝木石以填故晉王氏釋義云炎帝少女化精衛猶蜀帝化杜鵑也 述異記

精衛

昔炎帝女溺死東海中化為精衛其名自呼每衝西山木石填東海偶海燕而生子生雛狀如精衛生雛如海燕今東海精衛書水處謂不離水一名鳥市一名冤禽又名志鳥俗呼帝女雀

<p>100 鶯鼠</p> <p>胡文漢圖本</p>  <p>狗扶山有鳥狀如鷄而鼠尾名曰鶯鼠 九則國大旱</p>	<p>(3) 鶯鼠</p> <p>つるふしうろを しりふきりり あしうろくこ いんひんうと</p> <p>鶯鼠</p> 
<p>二一 鶯鼠</p> <p>狗扶山有鳥 狀如鷄而鼠 尾名曰鶯鼠 九則國大旱</p>  <p>三才圖會 鳥獸鳥</p>	<p>和刻山海經圖</p> <p>東山經 ○鶯鼠鳥</p> <p>狗扶山</p> <p>卷之四 第二十六圖</p>  <p>狗狀之山…… 為焉其狀如鷄而鼠毛其名曰鶯鼠見則其邑大旱</p>
<p>廣注</p> <p>鶯鼠狀如鷄而鼠尾見 九則國大旱則其邑大旱</p> 	<p>圖書集成 鶯鼠圖</p> <p>63 5317</p> <p>山海經 東山經</p> <p>狗狀之山有鳥焉其狀如鷄而鼠毛其名曰鶯鼠見則其邑大旱 任臣按駢雅曰鶯鼠鷄屬也事物紺珠云鶯鼠如鷄鼠毛篇韻作鶯字兼作鶯圖實曰鶯鼠如鷄見則旱涸</p> 

(4) 數斯



胡文澳圖本

數斯

卑塗山有鳥狀如鴉人足名曰數斯食之已瘳



和刻山海經圖

西山經

卷之二

七



○數斯

釋名

西南三百八十里曰卑塗之山

有鳥焉其狀如鴉而人足名曰數斯

食之已瘳

三才圖會鳥獸鳥

數斯

卑塗山白鳥狀如鴉人足名曰數斯食之已瘳



圖書集成

數斯圖

63




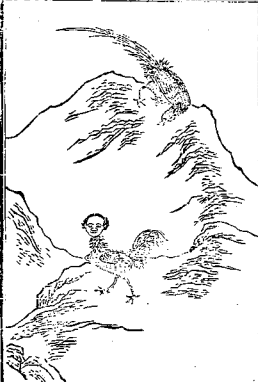


山海經

西山經

卑塗之山有鳥焉其狀如鴉而人足名曰數斯食之已瘳

任臣按駢雅云周周大首駕觸數斯皆人足事物紺珠曰數斯如雉人足郭曰瘳或作痲



<p>117 免溪</p> <p>胡文漢圖本</p>  <p>鹿臺山有鳥狀如雄雞人面名曰免溪其鳴自呼見則主國有兵</p>	<p>(5) 鳥 免溪</p> 
<p>31 鳥溪</p> <p>鹿臺山有鳥狀如雄雞人面名曰免溪其鳴自呼見則主國有兵</p>  <p>三才圖會 鳥獸鳥</p> <p>36a 122</p>	<p>西山經 八卷之二 十</p>  <p>○免溪風</p> <p>又西一百里曰鹿臺之山今在其上多白玉其下多銀其獸多狝牛羝羊白象<small>象頭</small>有鳥焉其狀如雄雞而人面名曰免溪其鳴自呼也見則有兵</p>
<p>99</p> <p>免溪狀如雄雞而人面見</p>  <p>廣注</p>	<p>山海經 西山經</p> <p>鹿臺之山有鳥焉其狀如雄雞而人面名曰免溪其鳴自呼也見則有兵</p> <p>任臣按別會云曰鳥人面者非大美則大惡大美者類惡大惡者免溪黃省會詩海內揚戈兵鳥候下鹿臺</p>  <p>圖書集成 鳥後圖</p> <p>63 525</p>

駝雞



大明一統志

大明一統志卷九十九

駝雞

本朝永樂中國主進其巨鳥刺足等家羽亦貴方物
大馬 西洋布 獅子 駝雞 白鳥 福祿 青文可
靈芝 凡行則以草 蕙尾 長角馬 駝雞 通長

明史文獻

治納僕見其國在稱鴨刺之西

橫雲山人集 卷一百

雞頭長賴鶴足高三四尺毛色若駝行亦如之常以充貢

忽魯麻地西洋大爾也

橫雲山人集 卷一百

獅子麒麟駝雞福祿靈羊帶貢則大珠寶石之類

本草綱目 卷四十九

駝鳥



釋名駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞 駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞 駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞

駝鳥

釋名駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞 駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞 駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞

火雞



鳥 駝 火雞 釋名駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞 駝雞 鴉食火雞 同骨托禽 時珍曰駝雞

圖書集成

駝鳥部彙考

骨托禽 鴉食火雞 駝雞 鴉食火雞 駝雞 鴉食火雞 駝雞 鴉食火雞



三佛齊火雞

三佛齊產火雞大於鶴頸亦過長軟紅冠銳齒毛如青羊也脚長黑爪甚利解傷人腹致死食糜雞素之不死

阿丹國產花白駝雞

阿丹國產花白駝雞如驢白首白眉滿體潤通青花如香青花白駝雞如雁鹿







祖法兒國山駝雞

祖法兒國有山駝雞頸頸身如鶴長三四尺脚二指毛如駝行亦如駝故喚駝雞

李時珍曰駝雞形托亦駝字之訛

集解

陳藏器曰駝鳥如駝生西戎高宗末徵中吐火羅獻之高七尺足如象駝鼓翅而行日三百里食銅鐵也時珍曰此亦是鳥也能食物所不能食者以略之

<p>86 鴉</p> <p>胡渙文圖本</p> <p>長舌山有鳥狀如鴉而人面脚如人手 名曰鴉其鳴自時見則卜國多曠士又 多放士也</p> 	<p>(7) 鴉</p> <p>老若の山中 多あり名は けくゆい ゆふのく おひ</p> <p>鴉</p> 	
<p>2-33 鴉</p> <p>長舌山有鳥狀 如鴉而人面脚 如人手名曰鴉 其鳴自時見則 其國多曠士又 多放士也</p> 	<p>三才圖會 鳥獸鳥</p> <p>南山經 卷之一 第四開</p> 	<p>和刻山海經圖</p> <p>南次二經之首曰柁山<small>音西</small>臨流貫北望諸毗東望 長石名... 為鳥其狀如鴉而人面脚如人手其音如鴉其 名曰鴉其鳴自時見則其國多放士作放逐也</p> <p>○鴉也 ○長舌也 ○鴉也 ○長舌也</p>
<p>長舌山有鳥狀 如鴉而人面脚 如人手名曰鴉 其鳴自時見則 其國多曠士又 多放士也</p> 	<p>山海經 南山經</p> <p>南次二經之首曰柁山有鳥焉其狀如鴉而人手其 音如鴉其名曰鴉其鳴自時見則其國多放士 郭曰其脚如人手擲未詳放逐或作放也 任 臣按蕭海云鴉鳥鳴日人首事物紺珠亦云鴉身 如鴉人面人掌乙酉歲夏六月有鳥止於杭之慶 春門上三目足如小兒面若老人其鳴曰鴉或以 為即鴉鳥也按圖贊曰彗星橫天鯨魚死浪鴉鳴 於邑賢士見放厥理至微言之無象又陶潛讀山 海經詩鴉見城邑其國有放士念彼懷王世當 時數來止或云鴉鴉當作丹鴉黃省會詩云冤彼 鴉鳥鳴放士真堪哀即此</p>	<p>鴉鳥圖</p> <p>圖書集成</p> <p>63 522</p> 

[8] 鶉 鶉きて



胡文煥圖本

私鶉 鶉



翼望山有鳥狀如鳥三首六尾自為北
往善笑名曰鶉鶉服之不味佩之可以
禦兵

和刻山海經圖



西山經

卷之二十一 五

翼望之山... 有鳥焉其狀如鳥三首六尾而善笑
名曰鶉鶉... 使人不厭者... 佩之可以禦兵
且... 佩之可以禦兵

三才圖會 鳥獸鳥

鶉 鶉

翼望山有鳥
狀如鳥三首
六尾自為北
往善笑名曰
鶉鶉服之不
味佩之可以
禦兵



圖書集成

鶉 鶉圖



山海經

西山經

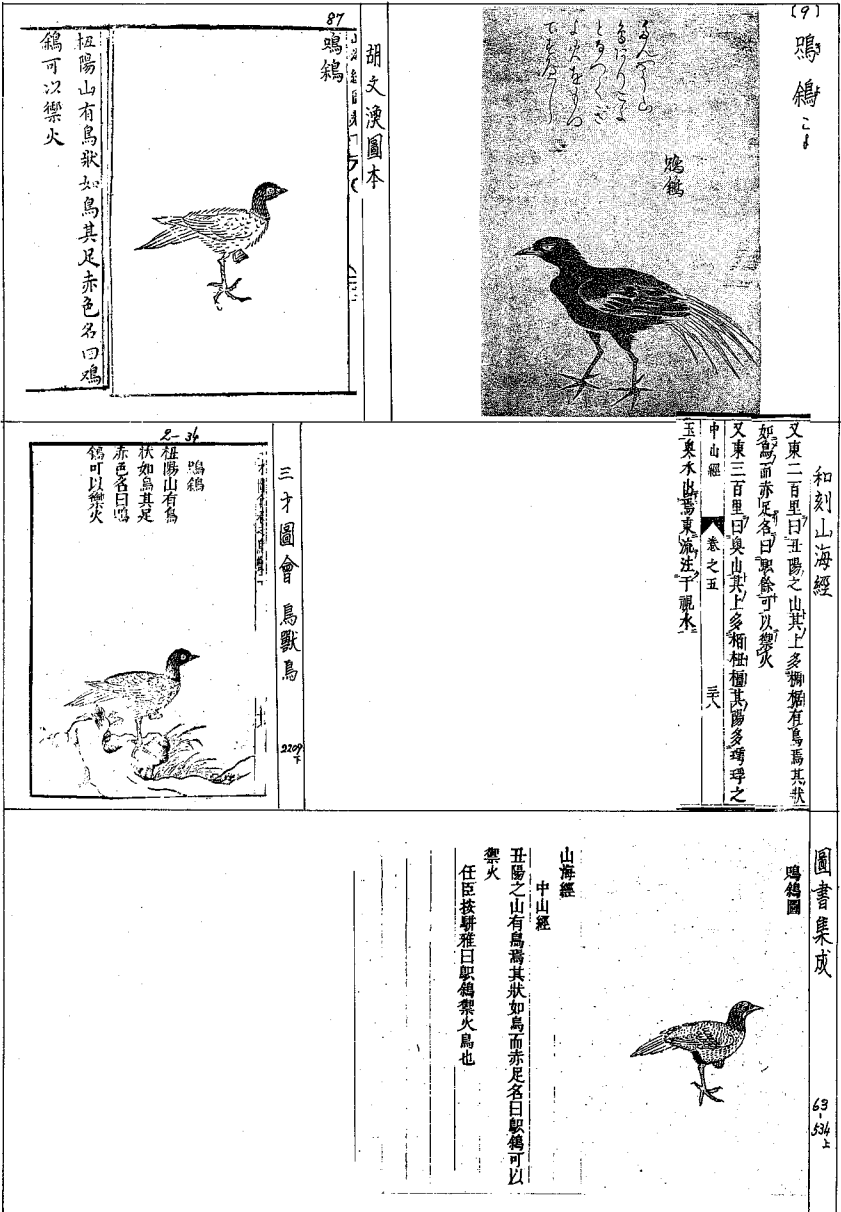
翼望之山有鳥焉其狀如鳥三首六尾而善笑名曰
鶉鶉服之使人不厭又佩之可以禦兵
郭曰不厭也周書曰服之不昧官莫禮反或曰
昧昧目也 任臣按帶山鳥自為北往亦名鶉鶉
事物紺珠云鶉鶉即鳥九首六尾善笑自為雄
黃氏之誤也又解雅云鶉鶉三首元覽云三首之
鳥有鶉鶉九首之異有鶉鶉九首者書或作
鶉鶉程良庸曰鶉鶉不厭當息不胸圖贊云鶉鶉
三頭無獸三尾俱無不祥消凶辟除君子服之不
遂不處


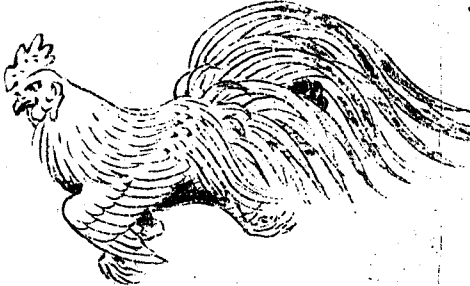
廣注

103

鶉 鶉狀如鳥三首六尾





	<p>見物 明季蘇著 叢書新編 424 雞類最多轉非魯雞之不期焉雞之不支而雅稱雞 大者蜀莊子云越雞不能伏鶉卵言小也世說雞三 尺日雞今秦雞亦甚鉅儼山雞似母雞而小馬雞色 綠</p>	<p>[77] 馬雞 かこひまろ とけいろうく 馬雞 </p>
	 <p>鳥獸戲畫 長尾鶏参照</p>	



[14] 鷓鴣かく



胡文漢圖本

95 鷓



三危山有鳥一首三身狀如鷓鴣文而赤頭名曰鷓

和刻山海經 二九・三〇

又西三百五十里曰天帝之山……

有鳥焉其狀如鷓鴣黑文而赤翁頭下毛音名曰鷓音珍珍食之已膏

西山經 卷之二 七

又西二百二十里曰三危之山今在嶺南廣西云
有鳥焉一首而三身其狀如鷓其名曰鷓鴣似鷓
頭音珍下自云其音則又其耳
別地應在上故屬工夏屬在耳耳



三才圖會

62 鷓

三危山有鳥一首三身狀如鷓鴣文而赤頭名曰鷓



圖書集成

鷓鴣圖



山海經

西山經

天帝之山有鳥焉其狀如鷓鴣黑文而赤翁名曰鷓食之已膏

郭曰翁頭下毛 在臣按讀書考定曰此連已鷓雷鷓已痔事物紺珠亦曰雷鷓已痔數斯已瘼圖贊曰黑文亦翁鳥念隱痔

63 鷓





胡文渡圖本

18 神陸

崑崙之丘有天帝之神曰神陸一名豎
吾其狀虎身人面九首司九域之事



西山經 卷之一第廿三節 九
之上有神陸吾司之其狀虎
身而九尾人面而虎爪是神也司天之九部及帝之
關時主九域之節節也

三才圖會人物

14-60

崑崙之丘
有天帝之
神曰神陸
一名豎吾
其狀虎身
人面九首
司九域之
事



西山經

崑崙之丘是實惟帝之下都神陸吾司之其狀虎
身而九尾人面而虎爪是神也司天之九部及帝之
關時有鳥焉其名曰鴉鳥是司帝之百服

注 下都天帝都邑之在下者也陸吾即肩吾也九
部主九域之部界爾時天帝苑囿之時節也服焉
服也或作藏莊周曰肩吾得之以處大山也任
臣棄王世貞駢云彼豎亦何為兮陸吾役不得
主虞稍秦子賦控陸吾而陸驪蟲徐氏善修風介
陸吾勝鑄而列圖謂此也事物紀原作豎吾虎身
人面九首司九域事開山圖注無外之山在崑崙
東南五龍天皇嘗出此中為十二時神也道里既
殊或與此神異

豎吾虎身九首人面虎



[17]

鸛神



胡文渡圖本

鸛神

鸛山之神其狀鳥身龍首古者祠之禮
用璋噐以獻



和刻山海經圖

南山經 卷之一

七



○鸛神也 ○璋噐也

凡雉山之首自招搖之山以至箕尾之山凡
十山二千九百五十里其神狀首鳥身而龍首其鬣
之禮毛言其鬣狀其毛也通用璋噐玉璋神主鳥
也標用徐米音其神之秀也界反今江東音其
一璧稻米白管爲席也音其

三才圖會 人物

877

14-63

鸛山之
神其狀
鳥身龍
首者
祠之禮
用璋噐
以獻



圖書集成

60307

南山經

凡雉山之首自招搖之山以至箕尾之山凡十山一
千九百五十里其神狀首鳥身而龍首其鬣之禮毛
用一璋玉璋噐用徐米一璧稻米白管爲席
毛擇性取其毛也

柅山至

漆吳山

共十七

山之神

南山經

凡南次二經之首自柅山至於漆吳之山凡十七山
七千二百里其神狀首龍身而鳥首其鬣毛用一璧
玉璋噐用徐



畢方 鳥 一足赤白喙



胡文漢圖本

畢方

義章山有鳥狀如鶴一足赤白喙名畢方見則有壽高書實云漢武帝有獻獨足鶴者人皆以為異東方朔奏曰山海經云畢方鳥也驗之果是



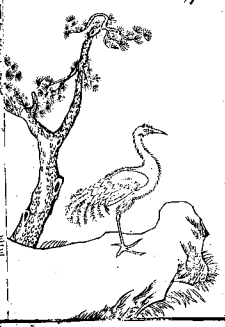
和刻山海經圖



章我之山... 有鳥焉其狀如鶴一足赤白喙而白珠名曰畢方其鳴自叫也見則其邑有雊火災

三才圖會 鳥獸 鳥

畢方



義章山有鳥狀如鶴一足赤白喙名畢方見則有壽高書實云漢武帝有獻獨足鶴者人皆以為異東方朔奏曰山海經云畢方鳥也驗之果是

圖書集成

畢方圖



山海經 西山經

章我之山有鳥焉其狀如鶴一足赤白喙而白珠名曰畢方其鳴自叫也見則其邑有雊火

郭曰雊亦妖詖字 任臣按研雅畢方兆火鳥也商羊鷖兆水鳥也淮南子木生畢方注云狀如鳥青色赤脚一足不食五穀事物紺珠云畢方見者主壽樂苑云畢方老鬼也一曰南方獨脚鳥形如鶴向書故實云漢武帝有獻獨脚鶴者人皆以為異東方朔奏曰山海經云畢方鳥也驗之果是華林博議云孝武帝嘗有獻異鳥者裴徽東方朔曰此畢方也見山海經畢方本為畢方之訛又曰澤國火之精曰畢方狀如鳥一足以其名呼之則去即畢方也圖贊曰畢方赤文雞精是炳旱則高翔鼓翼陽景後乃流災火不炎正柳宗元逐畢方文元和七年夏火災日夜數十發蓋類物之為者說傳佳鳥莫實其狀山海經曰畢方見有雊火則怪鳥其畢方歟興化府志云嘉靖十八年九月間莆田縣火災是夜有鳥下火中即子厚所云畢方鳥也又續輿經云兪兒輿駢而逐去合畢方騰蹏以下鄉疑指此又蘇結文選注畢方如鳥兩足一翼常衛火作怪災與經文小有異同未可據也



胡文煥圖本

鸞鳥

女床山有鳥狀如翟玉乘畢備身如雉而尾長名曰鸞見則天下太平周成王時西戎來獻



西山經 八卷之二



鸞鳥見則天下安寧周成王時西戎獻之
○鸞鳥元
有為焉其狀如翟而五彩文或作鸞鳥屬也
○見後版
三才圖會 鳥獸鳥

說文云鸞神靈之精也赤色五采雉形鳴中五音頌聲作則至一日青鳳為鸞鸞雌曰和雄曰鸞舊云鸞血作膠可釀字等琴瑟之弦或曰鸞鳳之亞也始生類鳳又則五采變易當上古時鸞與順動此鳥帆集車上雄鳴於前雌應於後後世不能致作和鸞以象之因謂之鸞



圖書集成

禽蟲典第七卷

鸞鳥部彙考

釋名

鸞鳥 山鳥

鸞 趨 青 靈

羽 翔 青 靈

陰 蒼 青 靈

朱 雀 古 今 注

青 鳳 尋 經

鸞 鳥 圖

瑞鳥 青 靈

丹鳳 青 靈

化翼 青 靈

土符 青 靈

朱鳥 古 今 注



詩緯

含神霧

德化充塞照潤八冥則鸞珠也

春秋緯

元命苞

火離為鸞

山海經

西山經

女床之山有鳥焉其狀如翟而五彩文名曰鸞鳥見則天下安寧

(21)

比翼鳥 比翼鳥 比翼鳥



胡文煥圖本

79 比翼鳥



結曾國有比翼鳥爾雅云南方有比翼鳥不比不飛謂之鸚鵡注云似鳧青赤色一目一翼相得乃飛王者有孝德于邈遠則至

和刻山海經圖

西山經

八卷之二

古



欽定四庫全書 禮記注疏 卷之八 西山經 比翼鳥 鳥焉其狀如鳧而一翼一目相得乃飛名曰鸚鵡 鳥也色青赤不比不飛見則天下大水

三才圖會 鳥獸鳥



比翼鳥 結曾國有比翼鳥爾雅云南方有比翼鳥不比不飛謂之鸚鵡注云似鳧青赤色一目一翼相得乃飛王者有孝德于邈遠則至

圖書集成

631525



兩雅 釋地 南方有比翼鳥焉不比不飛其名謂之鸚鵡 似鳧青赤色一目一翼相得乃飛 釋鳥 鸚鵡比翼 注說已在上 山海經 西山經 崇吾之山有鳥焉其狀如鳧而一翼一目相得乃飛名曰鸚鵡見則天下大水 郭曰比翼鳥也色青赤不比不飛爾雅作鸚鵡鳥也 任臣按周書成王時巴人獻比翼鳥瑞應圖曰王者德及高遠則比翼鳥至管仲曰西海致比翼之鳥拾遺記成王時然丘國獻之狀如鵠而多力張華以為一青一赤在茶嶠山焦氏鳥林云比目附翼歎相得有羽鸚鵡而成九翳與七驂博物志云崇丘山有鳥一足一翼一目相得而飛名曰鳧見則吉其象之壽千歲管命益期與康伯殘林邑城外比翼鳥不比不飛鳥名歸飛鳴聲自呼皆類此類會作鸚鵡通志略引經又作鸚鵡贊曰比翼之鳥似鳧青赤雖云一形氣同體隔延頸離鳥翻飛合屬 海外南經 結句國比翼在其東其鳥青赤兩鳥比翼 郭曰似鳧 任臣按即鸚鵡也

疎斯



今人ふいふ
多かりく
てつゆをよ
そともあは
べのゆゑ

疎斯

67
疎斯

胡文煥圖本

灌題山有鳥狀如雌雉及面見人乃躍
名曰疎斯其鳴自呼



和刻山海經圖



○種九
長蛇
○疎斯

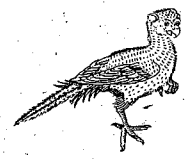
北山經 八卷之三 第二十四
又北三百二十里曰灌題之山...
有鳥焉其狀如雌雉而人面見人則躍
躍名曰疎斯其鳴自呼也

三才圖會 人物

灌題山有鳥
狀如雌雉及
人面見人乃躍
名曰疎斯其
鳴自呼



圖書集成



山海經
北山經
灌題之山有鳥焉其狀如雌雉而人面見人則躍名曰疎斯其鳴自呼也
任臣按彭儼五侯爵云疎斯狀如雌雉見人則躍
駢雅云疎斯當屬皆雉屬也

廣注

106
疎斯人成如雉而人面見



63 229

<p>132 強良</p> <p>朔丈煥圖本</p>  <p>大荒山北極外有口銜蛇其狀虎首人身四蹄長肘名強良</p>	<p>[23] 強良</p>  <p>大荒山の北極外 有口銜蛇其狀 虎首人身四蹄 長肘名強良</p>
<p>4-62</p> <p>三才圖會 鳥獸類</p> <p>強良</p> <p>大荒山北極外 有口銜蛇其狀 虎首人身四蹄 長肘名強良</p> 	<p>和刻山海經圖</p> <p>大荒北極</p> <p>有山名曰北極天權。又有神啣蛇操蛇其狀虎首人身四蹄長肘名曰強良。在鳥獸第七十一圖終。</p> <p>大荒北極</p> <p>九風之類</p> 
<p>人物 14-68</p> <p>三才圖會 人物</p> <p>大荒山北極外有口銜蛇其狀虎首人身四蹄長肘名強良</p> 	<p>圖書集成</p> <p>強良神圖</p> <p>大荒北極</p> <p>北極有神啣蛇操蛇其狀虎首人身四蹄長肘名曰強良</p> 

神魁(魁)



かみりんんんん
しんけいのうろ?

神魁

胡文煥圖本

126
神魁



剛山多神魁亦魁魁之類其狀人面獸
身一手一足所居處無雨

和刻山海經圖

西山經 八卷之二



神魁

又西百二十里曰剛山多柴木多瑇瑁之玉剛水出焉北流注于滄是多神魁其狀人面獸身一足一手其音如欬于欬也

三才圖會鳥獸獸

4-66
神魁

剛山多神魁亦
魁魁之類其狀
人面獸身一手
一足所居處無
用



圖書集成

60/311上



神魁圖

西山經

剛山是多神魁其狀人面獸身一足一手其音如欬其音如郭曰魁亦魁魁之類也音恥同反或作塊欬亦吟字假音任臣案圖書集成神魁集韻引此作神魁音總劉會孟曰深山魁魁多一足故詩曰山鬼獨一足圖讚曰其音如吟一腳人面

廣注

神魁人面獸身一足



神魁

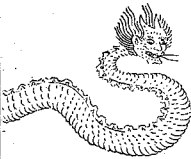
<p>76 奢尸</p> <p>朔文煥圖本</p>  <p>奢北之尸神名在大人國北獸身人面大耳耳兩青蛇以蛇貫耳云肝俞之尸</p>	<p>[25] 奢尸</p> <p>大人國者北之尸在其北獸身人面大耳耳兩青蛇以蛇貫耳云肝俞之尸</p> 
<p>人物 14-66</p> <p>三才圖會 人物</p> <p>奢北之尸 神名在大 人國北獸 身人面大 耳耳兩 青蛇以蛇 貫耳云肝 俞之尸</p> 	<p>海外東經 八卷之九</p> <p>大人國在其北爲入大坐而削鬚曰在巖丘北奢北之尸在焉北神獸身人面大耳耳兩青蛇以蛇貫耳云肝俞之尸在大人北</p>  <p>○奢北之尸</p> <p>和刻山海經圖</p>
<p>74</p> <p>奢北獸身人面大</p> 	<p>圖書集成</p> <p>奢北尸神圖</p> <p>60 319上</p> <p>海外東經</p> <p>大人國者北之尸在其北獸身人面大耳耳兩青蛇以蛇貫耳云肝俞之尸在大人北</p> <p>奢北尸亦神名也耳以蛇貫耳也非任臣桑三才圖會作奢北桑者比黃帝七輔之一冠纒云黃帝友奢北友地典路史奢北辨乎東以爲土師是也國名託有奢比國虛神滄溟賦云獻奢比游無根釋義曰青蛇以象木也類也</p> 

燭陰



胡文煥圖本

北海外鍾山有神名曰燭陰視為晝眠
為夜吹為冬呼為夏不飲不食息氣也
則為風身長百里其狀人面龍身赤色
居鍾山之下



和刻山海經

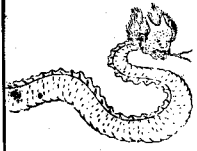
鍾山之神名曰燭陰。燭龍也。夫燭龍為晝眠為夜吹
為冬呼為夏不飲不食不息為風也。身長千里
在無骨之東其為物人面蛇身赤色居鍾山下。淮南
海外北經一卷之八

龍身

三才圖會 人物

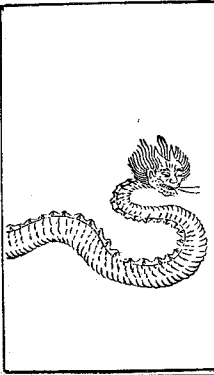
人物 14-62

北海外鍾山
有神名曰燭
陰視為晝眠
為夜吹為冬
呼為夏不飲
不食息氣
則為風身長
百里其狀人
面龍身赤色



廣注

燭陰于人面龍身赤色居天
下



圖書集成

燭陰神圖



海外北經

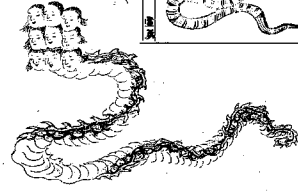
鍾山之神名曰燭陰視為晝眠為夜吹為冬呼為夏
不飲不食不息為風身長千里在無骨之東其為
物人面蛇身赤色居鍾山下
注曰燭龍也是燭九陰因名云息氣息也淮南
子曰龍身一足任臣桑扈地圖曰鍾山之神名曰
燭龍親為晝眠為夜吹為冬呼為夏息為風楚辭
日安不到燭龍何照王逸注云天之西北有幽冥
無日之國有龍銜燭而照之柳宗元天對曰修龍
且燭龍其首九陰極冥厥朔以兩榜萬里解云
且燭龍銜燭也張惠言龍行云蛇身人面髮如結
銜珠光吐照天下謂此也

<p>27 帝江</p> <p>天山有神形狀如皮囊背赤黃如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p> 	<p>28 帝江</p> <p>胡文煥圖本</p> <p>廣法</p>  <p>天山有神形狀如皮囊背赤黃如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p> 
<p>人物 44-67</p> <p>三才圖會 人物</p> <p>天山有神形狀如皮囊背赤黃如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p> 	<p>西山經</p> <p>卷之二十四</p> <p>帝江</p>  <p>帝江云帝江狀如黃囊赤如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p>
<p>三才圖會 人物</p> <p>天山有神形狀如皮囊背赤黃如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p> 	<p>圖書集成</p> <p>帝江神圖</p> <p>60 304</p> <p>西山經</p> <p>天山有神焉其狀如黃囊赤如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p>  <p>帝江云帝江狀如黃囊赤如火六足四翼混沌無面目自識歌舞名曰帝江</p>



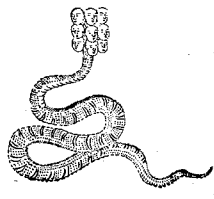
廣注 13 相柳氏

えんくんに
うむれは
くくくく
あり



胡文煥圖本

相柳氏



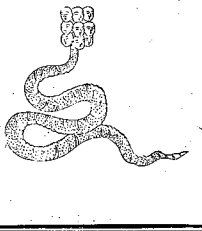
崑崙之北柔利之東有相柳氏者共工之臣也九首人面蛇身青色不敢北射畏共之臺臺四方隅盡蛇虎之形首向南方



海外北經 八卷之八 共工之臣曰相柳氏九首以食于九山... 相柳其血腥不可以樹五穀種

三才圖會 人物

崑崙之北柔利之東有相柳氏者共工之臣也九首人面蛇身青色不敢北射畏共之臺臺四方隅盡蛇虎之形首向南方



共工之臣曰相柳氏九首以食于九山相柳之所抵厥為澤谿焉殺相柳其血腥不可以樹五穀種禹厥之三仞三沮乃以為衆帝之臺在崑崙之北柔利之東相柳者九首人面蛇身而青不敢北射畏共工之臺臺在其東臺四方隅有一蛇虎色首衝南方... 郭曰頭各自食一山之物言食暴難禦抵覆厥掘也掘墓之而土三沮坎言其血青浸潤塚地地潤濕唯可積土以為臺觀崑崙山在海外者衝奮向也任臣按相柳姓管子三才圖會俱作相柳先... 康回擊黑龍氏亦曰共工太昊崩女媧立以上相不下女媧曰九有而朝同刻偕黑帝稱以相柳嗣保藏方亦作相繇見張揖廣雅及大荒經又案神... 布云雄虺九頭蓋謂此也案陳一巾曰共工來輔太昊太昊在位則相柳為陪臣太昊既陟則相柳於共工害臣之分既定義不可絕嗣主權無道當死事以親先君人之臣定義也彼各為其主精靈未泯死化九首之態所抵為澤澤水孽憤辰之氣理不盡無故禹不得不殺一曰禹戮之應非真相柳氏杜宇彭蠡是也

[29] 蜃 捷 (肥蠶) ふくい

陽山有蛇名曰蜃捷一首兩身六足四翼見則其國大旱湯時見出



陽山有神蛇名曰蜃捷一首兩身六足四翼見則其國大旱湯時見出

胡文煥圖本



肥蠶大旱湯時見出

和刻山海經圖



西山經 卷之二 第七 二 又西六十里曰太華之山... 有蛇焉名曰肥蠶六足四翼見則天下大旱... 此下復有建康蛇... 疑其... 北山經 卷之三 第九 又北百八十里曰澤夕之山無草木多錦玉碧水出焉而西北流注于海有蛇一首兩身名曰肥蠶見則其國大旱... 此以其名呼之河使取首... 三才圖會鳥獸類今 229上

三才圖會鳥獸類今

6-22 蜃捷 陽山有神蛇名曰蜃捷一首兩身六足四翼見則其國大旱湯時見出



三才圖會卷之鳥獸五

圖書集成



肥蠶圖

西山經

太華之山削成而四方其高五千仞其廣十里鳥獸莫居有蛇焉名曰肥蠶六足四翼見則天下大旱 郭曰湯時此蛇見於陽山下復有肥蠶疑是肥名 任臣按胡文煥圖作蜃捷音駭駢雅肥蠶肥蠶皆毒蛇也 又按成湯元祀肥蠶見於陽山後有七年之旱遂異記曰肥蠶西華山中有也見則大旱吳淑蛇賦或號肥蠶旌志願碑驛伯強今遂肥蠶宋謙文蜃捷一出潛魚盡佈圖贊云肥蠶為物與災合製鼓真陽山以表亢厲桑林既勝倏忽潛逝今華山有肥蠶穴土人謂之老君將明末時大旱會一見云



蜃捷為

蜃捷

海山神也
とてつゆ



胡文煥圖本

15 鐘山神

鐘山之中有神名曰鞞其狀龍身而人面



和刻山海經圖

鐘山子
○鞞鼓



八卷之第十一圖 十五

西山經 又西北四百二十里曰鐘山其子曰鞞其狀龍身而人面而龍身者皆曰鐘山之子
子取其類若其狀如人面而龍身者皆曰鐘山之子
是鐘山之子也
狀也

三才圖會人物

人物 14-58

鐘山之
中有神
名曰鞞
其狀龍
身而人
面



圖書集成

60 308下



鞞鼓圖

西山經

鐘山其子曰鞞其狀如人面而龍身是與欽馮瓊葆江于崑崙之陽帝乃鞞之鐘山之東曰崑崙欽馮化爲大鴉其狀如鸚而黑文白首赤喙而虎爪其音如長鶴見則有大兵鼓亦化爲鵞鳥其狀如鴉赤足而直喙黃文而白首其音如鴿見即其邑大旱
注此亦神名之爲鐘山之子耳 注其類皆見歸藏卷卷聲有曰麗山之子香羽人面鳥身亦似此狀也在臣案事物紺珠作古羅羅經鐘鼓又附耳而果佩注云謂鼓也又三才圖會曰鐘山之子有神名曰鞞其狀龍身而人面

庚注

鐘山神



鐘山神

[37] 白澤



胡文煥圖本

白澤

東望山有澤獸者一名曰白澤能言語
王者有德明照幽遠則至昔黃帝巡狩
至東海此獸有言為時除害



圖書集成

63 800 中

白澤部集考

釋名

澤獸 未詳并瑞志

白澤圖



朱書

符瑞志

澤獸黃帝時巡狩至於東海澤獸出能言達知萬物
之精以戒於民為時除害賢君明德幽遠則來

三才圖會

白澤

東望山有澤獸者一名曰白澤

白澤部紀事

珍珠船弄庶人妹以白澤枕辟魃

白澤部外編

雲笈七籤黃帝巡狩東至海登祖山於海濱得白澤
神獸能言達於萬物之情因問天下鬼神之事自古
精氣為物遊魂為變者凡萬一千五百二十種白澤
言之帝今以圖寫之以示天下帝乃作祝邪之文以
祝之

三才圖會鳥獸部

875下

白澤

東望山有澤獸者一名曰白澤
能言語王者有
德明照幽遠則
至昔黃帝巡狩
至東海此獸有
言為時除害



窮奇 きうき



窮奇

胡文煥圖本

窮奇



卸山音有獸狀如牛騾尾鬃毛音如嗥
狗關乃助不直者名曰窮奇亦能食人

和刻山海經圖



山海經 卷之二十 窮奇

又西二百六十里曰卸山其上有獸焉其狀如牛
鬃毛名曰窮奇音如獾狗是食人 云似虎鬃毛有
鬃毛是似一名號曰解我

窮奇狀如虎有翼毛如食人從首始所食後棄
海內北經 卷之十二 三

三十圖會 鳥獸歌

窮奇

卸山有獸狀如
牛騾尾鬃毛音
如嗥狗關乃助
不直者名曰窮
奇亦能食人



圖書集成

64 287上



山海經

西山經

卸山有獸焉其狀如牛鬃毛名曰窮奇音如獾狗是
食人

卸曰或云似虎鬃毛有翼銘曰窮奇之獸厥形甚
醜馳逐妖邪莫不奔走是以一名號曰神狗 任
臣案高氏緯略引此作封山云窮奇聞人關乃助
不直者文王出獵所獲張揖上林賦注窮奇其音
如狗嗥宛委餘編云窮奇逐妖一名神狗耕雅曰
牛鬃毛謂之窮奇黃香九宮賦騶驪而挾窮奇
即此也又逐疫神亦名窮奇後漢志云窮奇騰根
共食豕北方天神亦名窮奇淮南子云窮奇廣其
風之所生也抱朴子云前道十二窮奇後從三十
六辟邪皆非此窮奇或作窮奇誤

海內北經

窮奇狀如虎有翼食人從首始所食後棄

卸曰毛如鬃 任臣按呂氏春秋厲門北豨豨窮
奇之地太平御覽北方有獸狀如虎有翼名窮奇
即此又窮奇渾敦檮杌饕餮是為四凶取此義也
神異經

窮奇

西北有獸焉狀似虎有翼能飛便食人知人言語
聞人圖報食直者聞人忘信販食其鼻聞人惡逆不
善輒殺獸往饋之名曰窮奇亦食諸禽獸也

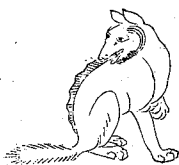
[35] 朱獮



朱獮
あつちや
うらぐと見
けいしん
あらうれん
スミシヤウ

胡文煥圖本

101 朱獮



獸山有獸狀如狐而魚鬣名曰朱獮其
鳴自呼見則國有大恐

和刻山海經圖



東山經

八卷之四

四

又南三百里曰獸山

○朱獮

沈徐

珠璣

獸焉其狀如狐而魚鬣其名曰朱獮其鳴自呼見
則其國有恐

三才圖會 鳥獸獸

4-47

朱獮

獸山有獸狀如
狐而魚鬣名曰
朱獮其鳴自呼
見則國有大恐



圖書集成

朱獮圖

64 266 中



山海經

東山經

獸山有獸焉其狀如狐而魚鬣其名曰朱獮其鳴自
叫見則其國有恐
任臣按辨雅曰朱獮乘黃狐屬也事物紺珠曰朱
獮似狐魚鬣真髮集云卒搖揮而來御即此圖贊
曰朱獮無奇見則邑驚通感靡誠惟數所在因事
而作未始無待

廣注

??

朱獮狀如狐而魚鬣見則
其國有恐



【36】
蕪



胡文煥圖本

58
蕪

蕪狀如蕪黃身白首白尾見則大風



知刻山海經圖

中山經

卷之五

五



○聞獲焉

其草多香

見則

又東三百五十里曰凡山其木多檜櫟其草多香
有獸焉其狀如蕪黃身白頭白尾名曰聞獲焉見則
天下大風

三才圖會鳥獸歌

4-22






三才圖會卷之四

上

蕪

蕪狀如蕪黃身
白首白尾見則
大風



<p>10 猛槐</p> <p>胡文煥圖本</p>  <p>譙明之山有獸狀如貍九赤毫骨猶也 其一聲如鼯留鼠名曰猛槐圖之可以 禦凶</p>	<p>[37] 猛槐</p> <p>去うめいこ まうとをいひ りひくをいひ りりまうとを りりまうとを</p> 
<p>4-77 猛槐</p> <p>譙明之山有獸 狀如貍赤毫骨 猶也其聲如 鼯鼠名曰猛槐 圖之可以禦凶</p>  <p>三才圖會 鳥獸獸</p>	<p>和刻山海經圖</p> <p>北山經 八卷之三 第十八圖 二</p> <p>又北四百里曰譙明之山澗水出焉西流注于河其 中多何羅之魚其首而寸身其音如吠犬食之已瘧 有獸焉其狀如貍而赤毫也骨九其音如鼯獨名曰 猛槐可以禦凶在畏符書此也 雄黃一作多</p>  <p>〇五槐三 翻經云 譙明之山</p>
<p>譙明之山有獸焉其狀如貍而赤毫其音如鼯獨名 曰五槐可以禦凶</p> <p>郭曰類豪猶也雲凶辟凶邪氣亦在畏獸畫中 任臣業研雅曰豨蓬如狗孟槐如狙石毅如貉活 禡如鼠圖贊云五槐似狙其業則赤列衆畏獸凶 邪是辟氣之相勝莫見其迹又五槐代詳編作孟 槐</p>	<p>圖書集成</p> <p>五槐圖</p> <p>64 288中</p> 

駃騠



胡文煥圖本

40



中曲山有獸狀如馬白身黑尾一角虎足齧牙音如振鼓能食虎豹名曰駃佩之可以禦凶

和刻山海經圖

當尾

○駃騠

身遠魚之



西山經

卷之二十六

天

又西三百里曰中曲之山其陽多玉其陰多雄黃白玉及金有獸焉其狀如馬而白身黑尾一角虎牙爪音如鼓音其名曰駃騠是食虎豹及鹿也駃騠亦在夏緯書畫可以禦凶

西山經

辛

音如鼓音其名曰駃騠是食虎豹及鹿也駃騠亦在夏緯書畫可以禦凶

三才圖會 鳥獸獸

2282下

4-22

駃 中曲山有獸狀如馬白身黑尾一角虎足齧牙音如振鼓能食虎豹名曰駃佩之可以禦凶



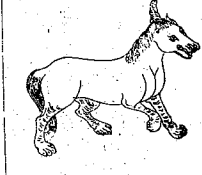
圖書集成 禽蟲典第七十九卷

駃騠

釋名

茲白 漢書月書

駃騠



爾雅

釋名

駃如馬齧牙食虎豹

駃亦野馬名也其狀如馬其牙齧曲而食虎豹也詩秦風云隰有六駃傳引此文以釋之是也

山海經

西山經

中曲之山有獸焉其狀如馬而白身黑尾一角虎牙爪音如鼓音其名曰駃騠是食虎豹可以禦凶

郭曰爾雅說駃不道有角及虎爪駃亦有長鬣書中養之辟兵刃也 任臣案音平公獵遇虎伏於道問師曠曠曰臣聞駃騠伏虎豹意若所乘者駃騠乎又宋史戴顓州山中有異獸如馬而食虎豹北人不能識問劉敞敞曰此駃也為說其狀且

補山海經管子書陸之汲冢預語曰駃騠能食虎豹邢氏爾雅疏曰駃亦野馬名秦風隰有六駃駃

樂名劉陸瓊云駃騠梓榆也以其未皮似駃騠故名之王會篇樂果以茲白注茲白一名駃

駃騠

駃騠

(39) 飛鼠



天竺けしぬ
てんしきんこ
てんしきんこ
しうきんこ
飛鼠

朔文源圖本

55 飛鼠

天地山有獸狀如兔而鼠者以其背毛
飛飛即伸名曰飛鼠



和刻山海經圖



北山經 八卷之三

六

又東北二百里曰天池之山其上無草木多文石有獸焉其狀如兔而鼠首以其背毛飛飛即伸也其名曰飛鼠

○飛鼠元

○飛鼠元

續世元

三才圖會 鳥獸部

4-33

飛鼠
天地山有獸狀如兔而
鼠首以其背毛飛飛
即伸名曰飛鼠

三才圖會卷之四



圖書集成

飛鼠圖

山海經

北山經

天池之山有獸焉其狀如兔而鼠首以其背飛其名曰飛鼠

郭曰用其背上毛飛則仰也任臣案宛委餘編飛鼠斷後狼風鶴橋機補注云飛鼠即文選所謂飛鼯雲南姚安蒙化有之其肉可食其皮治難產

說者云飛者以翼而天池之山飛鼠以背又方言云鼯鼠自關而東謂之飛鼠蓋所指鼠也非此

圖贊曰或以尾翹或以髻波飛鼠鼓翰儻然皆騰

用無常所惟神是焉天啓三年十月鳳縣有大鼠

肉翅無足毛黃黑豐尾若豹首若兔飛食黍粟疑

即斯類也

廣注

飛鼠





狀如兔而鼠首出
天池出



圖書集成

卷三

63 804 p

<p>77 赤狸 胡文燬圖本</p> <p>西海有赤狸周文王以於姜里散宜生 得之獻紂遂免西伯之難</p> 	<p>[41] 赤狸</p> <p>西海有赤狸周文王以於姜里散宜生得之獻紂遂免西伯之難</p> <p>赤狸</p> 
<p>4-40</p> <p>赤狸</p> <p>西海有赤狸周文王以於姜里散宜生得之獻紂遂免西伯之難</p>  <p>三才圖會 鳥獸獸 中 2257</p>	<p>Figure 1: A large, mostly blank rectangular area, possibly representing a missing or faded page from the original manuscript.</p>
<p>Figure 2: A large, mostly blank rectangular area, similar to Figure 1, representing another page from the manuscript.</p>	<p>圖書集成 赤狸圖</p>  <p>69 779</p>

【42】
長氣 チキウチキウ



胡文煥圖本
長氣

浮玉山有獸狀如猴四耳虎毛而牛尾
其音如犬吠名曰長氣食人見則大水



和刻山海經圖



又東五百里曰浮玉之山北望具區其陰多風多
謂之東望諸毗多有獸焉其狀如虎而牛尾其音如
吠犬其名曰長氣是食人



三才圖會鳥獸歌

4-17

長斑
浮玉山有獸狀
如猴四耳虎毛
而牛尾其音如
犬吠名曰長氣
食人見則大水



圖書集成
雜圖



山海經
南山經

浮玉之山北望具區東望諸毗有獸焉其狀如虎而
牛尾其音如吠犬其名曰長氣是食人
郭曰具區今吳縣西南太湖也尚書謂之震澤
任臣案楊慎補註曰浮玉即金山也唐明皇改浮
玉爲金山前人詩天將白玉浮諸水帝以黃金姓
此山又劉會孟曰浮玉之山有一在歸安者爲小
浮玉在孝豐者爲大浮玉若水出其陰然歷云北
望具區則山在其區南非金山明矣一統志浮玉
在湖州城南七里玉湖中巨石如積波不以水盈
縮故名天目山志曰天目一名浮玉山見山海經
疑非是按事物紺珠曰長氣出湖州浮玉山如猴
四耳虎身牛尾聲如犬吠即斯獸也異物類苑引
經亦作長斑

廣注



[43] 天馬
47 福祿參照



くわいりり
てんま
ひまのわり

胡文煥圖本

116
天馬



馬成山有獸狀如白犬黑頭見人則飛
不由名曰天馬其鳴自呼見則豐稜

和刻山海經圖



北山經 八卷之三 射日圖 古

又東北二百里曰馬成之山其上多文在其陰多金
玉有獸焉其狀如白犬而黑頭見人則飛其鳴自呼
其名曰天馬其鳴自呼

大明一統志 九十卷

忽魯攏斯圖

大馬 西洋布 獅子 駝雞 福祿 以鹿也
靈芝 尾大者重三十餘長角馬塔駝 鹿角
凡行則以車載之

三才圖會 鳥獸類

4-58
天馬

馬成山有獸狀如白犬黑頭見人則飛不由名曰天馬其鳴自呼見則豐稜



圖書集成



山海經

北山經

馬成之山有獸焉其狀如白犬而黑頭見人則飛其名曰天馬其鳴自呼

郭曰言肉翅飛行自在 任臣按韻寶云飛鹿天
上神獸鹿頭龍身在天為勾陳在地為天馬即其
獸也文人用天馬行空之語亦指此爾爾寶曰龍
靈靈遊騰蛇假暮未若天馬自然凌者有理懸運
天機潛御吳淑錦賦辟邪天馬之奇名山藏載永
樂十八年忽魯攏斯進天馬即此獸也又徐陵云
天馬龍媒葉簡文云天馬半漢指漢之天馬非此

廣注

73
天馬狀如白犬而黑頭有
天馬肉翅能飛出馬成山



66 282 下

[44] 辨羊 伊靈羊參照



かうぞこ
まひつ
うくも

辨羊

大明一統志卷九十
羊 羊有狀狀如
羊馬尾名曰羴
羊術雅云羊六
尺爲羴即此羊
也脂可以治皴



胡文煥圖本

[45] 駝犬

こよけうぬ
くたんとけ
るものあけけ
とて人用のせい
のけうをい

駝犬



渠搜國有駝犬周成王嘗獻之駝犬若
雷犬身高三尺有翼能飛



駝犬

三才圖會 鳥獸



渠搜國有駝犬
周成王時獻之
駝犬者雷犬身
高三尺有翼能
飛

圖書集成

辨羊

羊角能碎佛牙
辨羊

釋云大羊羴大羴羊似羊而大角有圓繞是
文夜則懸角木上以防惡語曰羴羊掛角之謂也
今以其角爲馬掛沫特尊字說云羴比其類環其角
外羴以自防羴獨棲其角木上羴所常大其如此
亦以避羴其羴也亦所以爲羴也

阿州圖

紀錄業編卷之六十一
屋三四層高厨房臥室皆在其上風俗頗淳民下畜
饒男女拳髮穿長衫婦女出則用青袂蔽面布帽兜
頸不露形體兩耳垂金銀數枚項掛綵絲地產於羊
自胸中至尾垂九塊名爲九尾羊千里駝蛇黑金花
驢蛇蹄雞金錢豹皆用金銀色段青白花磁器檀香
胡椒之屬其酋長威暴 恩賜躬以方物貢獻

64/148

三六

[46]

耳鼠いりね



胡文煥圖本

89

耳鼠



丹熏山有獸狀如鼠而兔首麋耳音如鳴犬以其髯飛名曰耳鼠食之不昧可禦百毒

和刻山海經

北山經

卷之三 第十九圖 四

又北二百里曰丹熏之山其土多柗相其草多垂蓮雅有其草多升獲瀟水出焉而西流注于棠水有獸焉其狀如鼠而兔首麋身其音如柗犬以其尾飛其音如柗名曰耳鼠食之不昧禦百毒也見又可以禦百毒

三才圖會 鳥獸獸

227



3-23

鹿

鹿狀如小狐鼠大率如鹿其尾項毛紫赤色香艾腹下黃味銀白脚短爪長三又許好將夜行飛且乳亦謂之飛生聲如人呼食火向從高赴下不能從下上筋布子曰鹿鼠五技而窮謂飛不能上走不能捷不能水能遊不能渡谷能穴不能掩身能走不能先人雖多技能皆有弱極也一名夷田一名馳又名飛鹿又名鹿鹿山海經曰丹熏之山有獸焉其狀如鼠而兔首麋耳其音如鳴犬以尾飛名曰耳鼠

圖書集成

63 鹿中

鹿鼠部集考

鹿鼠部集考
釋名
鹿鼠 夷田 鹿鼠
耳鼠 鹿鼠
飛鹿 鹿鼠
鹿鼠 鹿鼠
鹿鼠 鹿鼠



北山經

丹熏之山有獸焉其狀如鼠而兔首麋身其音如鳴犬以其尾飛名曰耳鼠食之不昧又可以禦百毒郭曰尾或作耳鼠大腹也見釋名音采 任臣案即鹿鼠飛生鳥也狀如蝙蝠暗夜行飛其形翅聯四足及尾與蝠同故曰以尾飛神農經謂之鹿鼠禽經謂之蝠爾雅謂之夷由劉子曰飛鹿甘煙走獲美號別錄稱鹿鼠狀如蝙蝠爾雅注言鹿鼠狀如小狐經稱耳鼠兔首麋身雖所喻不同其實一也又博物志鼠之最下者謂之耳鼠那萬以為獸鼠也非此

福祿 幼天馬參照



くろいぶくの
うしろのくま
うしろのくま
ともく

大明一統志 九十
大明一統志 九十卷
1897

前代無考
本朝永樂中國王遣其臣馬刺足等來朝其物
大馬 西洋布 獅子 駝雞 可七尺長
靈王尾大者重二石餘長角馬答駝
祖法見圖
1892







本朝永樂中國王遣其臣來朝其物
西馬 鶴頂 駝雞 福祿 片脂 沉香 乳香
大明一統志 九十卷
215



明史 卷一百一
忽魯渾奴 西洋大國也
獅子麒麟駝雞福祿靈王香黃則大珠寶石之類
所賈有

椿説子張月 岩波日本古典文學大系 42 卷之五
卷之十七 回 雲霧を懸て為朝列をたす
或曰忽魯渾奴 祖法見其の老疾の態にて愛せし
鹿也に福祿と雖もあり 対あるとせば赤柳湖の
日とりにも適ひし其の地をやがて福祿と名
るよしは書經に載たり。



後編引用實説産鹿
福祿 一作福鹿 即馬 大明一統志
卷八十九 忽魯渾奴國 祖法見國土産
法一福祿似驢 而花文乳愛
参考
三才圖會 鳥獸類
224

3-15
馬
三才圖會 卷之七 馬部 註
馬火畜也 火性純決 蹄遠 疾身 駝 爲 馬 乾 陽 物 也 故 其 蹄
圓 起 先 前 足 趾 先 後 足 八 尺 以 上 爲 龍 七 尺 以 上 爲 驃 六
尺 以 上 爲 馬 又 有 暴 下 馬 謂 其 暴 乘 之 可 以 抽 果 也 馬 左
足 白 曰 驃 純 黑 曰 驃 驃 白 謂 即 鐵 驃 也 驃 馬 白 蹄 白 鬃
黃 白 曰 黃 驃 曰 黃 赤 曰 雜 毛 曰 雜 黃 曰 雜 白 曰 駝 赤 黃
曰 時 青 曰 時 青 驃 驃 白 驃 連 鐵 驃 也 白 馬 黑 鬃 曰 駝
赤 身 黑 鬃 曰 駝 黑 身 白 鬃 曰 雜 陰 白 雜 毛 曰 駝 陰 雜 毛 也
即 花 驃 也 形 白 雜 毛 曰 駝 駝 在 好 而 白 曰 驃 曰 曰 曰 曰
駝 馬 白 曰 驃 駝 曰 駝 駝 馬 黑 曰 駝 馬 之 具 有 有 鬃
猶 龍 汗 血 之 屬 有 赤 鬃 身 曰 蒼 赤 鬃 曰 駝 馬 文 王
時 犬 戎 獻 之
畫馬 清冷板 康熙 各 卷 五 二 八 二 畫馬 卷
224

<p>35 羆</p> <p>胡文煥圖本</p> <p>旬山有獸狀如羊而無口黑色名曰羆 對其性頑狠人不可殺其稟氣自然</p> 	<p>[57] 羆けん</p> <p>くろくはんとふち そのまをまじりて とんるまをいへ</p> <p>羆</p> 
<p>4-18 羆</p> <p>旬山有獸狀如羊而無口黑色名曰羆其性頑狠人不可殺</p> 	<p>三才圖會 鳥獸 獸</p> <p>又東四百里曰洵 一作 山其陽多金其陰多玉有獸焉其狀如羊而無口不可殺也 稟氣自然其名曰羆 首選</p> <p>南山經 八卷之一 九</p> 
<p>39 羆</p> <p>廣注</p> <p>羆 狀如羊而無口</p> 	<p>山海經 南山經</p> <p>洵山有獸焉其狀如羊而無口不可殺也其名曰羆 郭曰洵一作旬無口稟氣自然 任臣案王氏釋義曰自人至物未有無口種之曰不可殺為其不成物也案獸經曰羆則比肩羆則無口事物紺珠云羆如羊無口黑色孫愷唐韻曰羆獸名似羊黑色無口不可殺也又作羆圖贊曰有獸無口其名曰羆香氣不入厥體無聞至理之靈出乎自然</p> <p>圖書集成 64 253上</p> 

<p>178 厭火獸</p> <p>胡文煖圖本</p>  <p>厭火國有獸身黑色火出口中狀似獼猴如人行坐</p>	<p>[53]</p> <p>厭火獸 けんくわじう</p> 
---	---

<p>4-57 屏翳</p> <p>屏翳在海東之北其獸兩手各拿一蛇左耳貫青蛇右耳貫赤蛇黑面黑身時人謂之雨師</p>  <p>三才圖會之鳥獸圖</p>	<p>4-57 厭火獸</p> <p>厭火國有獸身黑色火出口中狀似獼猴如人行坐</p>  <p>參考</p>	<p>28 廣注</p> <p>厭火國其口中在羅漢理</p>  <p>三才圖會鳥獸獸</p>
---	---	---

<p>三才圖會 屏翳</p> <p>屏翳在海東之北其獸兩手各拿一蛇左耳貫青蛇右耳貫赤蛇黑面黑身時人謂之雨師</p> 	<p>參考 屏翳圖</p> <p>厭火國有獸身黑色火出口中狀似獼猴如人行坐</p> 	<p>圖書集成 厭火獸圖</p> <p>64 278中 64 272上</p>
---	---	---

[54] 乘黃しやわう



胡式煥圖本

69 乘黃



西海外白民國有乘黃馬白身被髮狀如狐其背上有角乘之壽二千歲

和刻山海經



海外西經 卷之七

白民之國在龍魚北白身被髮鬚眉其人乘黃其狀如狐其背上有角乘之壽二千歲周禮曰白民乘黃天下有道飛黃伏皂

三才圖會鳥獸獸

廣注



4-38

乘黃 西海外 乘黃馬 狀如狐 角乘之



圖書集成







乘黃圖



山海經

白民之國有乘黃其狀如狐其背上有角乘之壽二千歲 海外西經

郭曰周書曰白民乘黃似狐背上有兩角即飛黃也淮南子曰天下有道飛黃服早 任臣案博物志曰民國有乘黃乘之壽三千歲稽瑞錄云成王時白民獻乘黃游氏應見曰乘黃一名魯黃龍翼馬身黃帝乘之而仙漢武欲得之如巫歌曰背黃何不來下 辨曰馬賦飛黃伏皂鞭錄云軒轅復飛黃而獨角高壽淮南注云飛黃出西方狀如狐背上有角乘之壽三千歲宋符瑞志辨地出乘黃之馬李長吉詩暫繫騰黃馬吳正子注云神黃也一日乘黃飛黃或作古黃舉黃如狐背兩角乘之壽千歲抱朴子騰黃之馬吉光之獸皆壽三千歲即此圖黃曰飛黃奇駿乘之難老揣再經騰忽若騰矯實聖有德乃集厥早

<p>113 猾衆</p> <p>胡文煥圖本</p>  <p>堯光山有獸狀如獼猴人面亂鬣穴居冬警名曰猾衆音如斫木聲見多猛役</p>	<p>[53] 滑(猾)衆(衆) こつさう</p>  <p>猾衆</p>
<p>4-56 猾衆</p> <p>堯光山有獸狀如獼猴人面亂鬣穴居冬警名曰猾衆音如斫木聲見多猛役</p>  <p>三才圖會 鳥獸類</p> <p>生才圖會卷之鳥獸四</p> <p>六</p> <p>224</p>	<p>南山經</p> <p>八卷之一</p> <p>七</p>  <p>又東三百四十里曰堯光之山其陽多玉其陰多金有獸焉其狀如人而鬣亂穴居而冬警其名曰猾衆音如斫木聲見則縣有大繇或曰其鬣亂</p> <p>○猾衆(六)</p> <p>○猾衆(六)</p>
<p>48 猾衆</p> <p>堯光山有獸狀如獼猴人面亂鬣穴居冬警名曰猾衆音如斫木聲見多猛役</p>  <p>廣法</p> <p>猾衆見則其人而鬣亂穴居而冬警其名曰猾衆音如斫木聲見則縣有大繇或曰其鬣亂</p>	<p>圖書集成</p> <p>44, 291</p> <p>猾衆圖</p>  <p>山海經</p> <p>南山經</p> <p>堯光之山有獸焉其狀如人而鬣亂穴居而冬警其名曰猾衆其音如斫木見則縣有大繇郭曰如人斫木聲絲作役也或曰其鬣是亂在臣披襲古懷字漢隸苑隸碑畏威懷德是也太平御覽作猾衆廣博物志作猾衆音誤駢雅曰猾衆如人而鬣亂禱磬身而羊首狂若海蟾書云以燕伐燕猾衆是遊按圖贊曰猾衆之獸見則與夜鹿政而出匪亂不適天下有道幽形匿進黃省會讀山海經曰國邑有大繇康莊行猾衆</p>



九尾狐

九尾狐人面九尾
九尾狐
九尾狐
九尾狐
九尾狐
九尾狐
九尾狐
九尾狐
九尾狐
九尾狐



胡文煥圖本

九尾狐

青丘國在海東之北有狐四足九尾汲
邵云栢柰子出征嘗獲一狐九尾



和刻山海經圖



又東三百里曰青丘之山亦有青丘國在海外水豐
五其腸多玉其陰多青雉音報屬有歌焉其狀如狐
而九尾其音如嬰兒能食人食者不盡令人不
逢妖狐之氣
或曰無益焉

海外東經 八素之九
青丘國在其北其大食玉其狐四足九尾一日在朝
陽北及鄒竹音曰栢柰子獲然乘海
陽北及鄒竹音曰栢柰子獲然乘海

三才圖會鳥獸歌



九尾狐
青丘國在海東
之北有狐四足
九尾汲邵云栢
柰子出征嘗獲
一狐九尾




圖書集成



青丘之山有歌焉其狀如狐而九尾其音如嬰兒能
食人食者不盡
郭曰亦有青丘國在海外水經云即上林賦云秋
田於青丘獸即九尾狐啖其肉令人不逢妖邪之
氣或曰蠱毒 任臣案孝經援神契德至鳥獸
則狐九尾田侯子曰殷溥為天子曰狐九尾孫氏
瑞應圖曰王者不傾于色則九尾狐至又曰王法
修明三才得所九尾狐至春秋運斗樞云瑞星得
則狐九尾又王會解青丘狐九尾乃青丘國也兩
青丘皆有九尾狐此所未審

青丘國其狐四足九尾
郭曰汲郡竹書曰栢柰子征於東海及三番得一
狐九尾即此類也 任臣案瑞應圖九尾狐六合
一同則見支王時東方朔之呂氏春秋禹行塗山
乃有白狐九尾造於禹塗山人歌之曰經綏白狐
九尾履履成王時青丘黃九尾狐見逸周書
栢柰子
對俗篇

狐狸豺狼皆善八百歲滿五百歲則善變為人形

<p>帶山有獸狀如馬首有角可以錯石名曰臚疎<small>臚音</small></p> 	<p>胡文煥圖本</p>	<p>ていんまう ありとんき 々々</p>  <p>臚疎</p> <p>[59] 臚疎<small>(疏)</small>くわんそ</p>
<p>4-14 臚疎 帶山有獸狀如馬首有角可以錯石名曰臚疎</p> 	<p>三才圖會 鳥獸類</p>	<p>北山經 卷之三</p>  <p>○臚疎<small>何遜畫</small> 又北三百里曰帶山其上多玉其下多青碧有獸焉其狀如馬一角有錯石錯石或作臚其名曰臚疎隨可以辟火</p>
<p>66 臚疎<small>狀如馬一角有錯石</small> 臚疎明以辟火也帶山</p> 	<p>廣法</p>	<p>山海經 北山經 帶山有獸焉其狀如馬一角有錯石其名曰臚疎可以辟火 郭曰音獸有錯石角有甲錯也或作臚 任臣案 駢雅曰臚現一角馬也五侯鯖云臚疎出常山如馬一角其性靈即此也異物彙苑作臚疎似誤圖 贊曰厭火之獸厥惟臚疎</p>  <p>圖書集成 4481上</p>

[60] 猛豹マウヘウ



胡文煥圖本

猛豹

南山有獸名曰猛豹似熊而毛彩有光澤其食銅鐵



和刻山海經圖



西山經 卷之二 第八圖 四
又西百七十里曰南山上多丹粟丹水出焉北流注于渭獸多猛豹似熊而小毛澤有光澤能食鳥多

三才圖會

猛豹
南山有獸名曰猛豹似熊而毛彩有光澤其食銅鐵









三才圖會之鳥獸圖

圖書集成



豹圖
山海經
西山經
女狝之山其獸多虎豹犀兕
南山上多丹粟丹水出焉北流注于渭獸多猛豹
猛豹似熊而小能食蛇食銅鐵

<p>17 葱鷲</p>  <p>符過山有獸名曰葱鷲狀如羊赤鬣而黑首</p>	<p>671 葱鷲</p> <p>葱鷲</p> <p>きんしんくしの ありそりつ とろつ</p> <p>後年</p> 
<p>4-12</p> <p>三才圖會 鳥獸 七</p> <p>葱鷲</p> <p>符過山有獸名曰葱鷲狀如羊赤鬣而黑首</p> 	<p>和刻山海經圖</p> <p>西山經</p> <p>又西八十里曰符過之山</p> <p>其獸多葱鷲其狀如羊而赤鬣</p> 
<p>53</p> <p>廣注</p> <p>葱鷲狀如羊而赤首</p> 	<p>圖音集成</p> <p>64 257</p> <p>山海經</p> <p>西山經</p> <p>符過之山其獸多葱鷲其狀如羊而赤鬣</p> <p>任臣案水經注作觀惡之山緯略引此作將過之山研雅曰羊之異者一角謂之羴羴亦觀惡之葱鷲一角而稱謂之羴羴事物紀原曰葱鷲如羊黑首赤鬣</p> 

[62] 旄牛 マウ



旄牛

胡文煥圖本
山海經圖考下ノC

侯山有獸狀如牛其足有四節而毛長
名曰旄牛



和刻山海經圖



北山經 卷之三 第二千圖 七

又北二百里曰潘侯之山其上多松柏其下多榛栲
其陽多玉其陰多鐵有獸焉其狀如牛而四節生毛
名曰旄牛 今旄牛皆豚及胡尾皆有長毛

曰翠山... 多旄牛 蓋獸望而小角細食草
有旄牛多鬣其狀如鴉亦黑而兩肩四足可以禦
吠 胡尾皆有長毛

三才圖會 鳥獸 獸

三才圖會卷之四 獸類

旄牛
侯山有獸狀如
牛其足有四節
而毛長名曰旄
牛

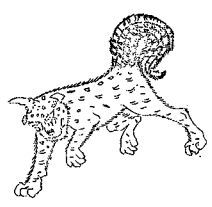


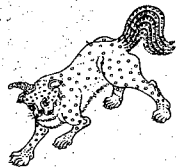


圖書集成



北山經

潘侯之山有獸焉其狀如牛而四節生毛名曰旄牛
郭云今旄牛皆豚及胡尾皆有長毛 任臣按文
獻通考云冉駹有旄牛無角一名犏牛肉重千斤
毛可為氍毹氏爾雅翼曰犏西南國旄牛也似牛
四節腹下及肘有赤毛長尺餘而尾尤佳大如斗
天子之車左羈以此爲之是旄斨一物也又按上
林賦庸旄旄斨旄斨注云庸今犏牛旄今犏牛斨
今犏牛李東璧亦云旄牛亦名犏牛即爾雅之犏
牛若犏牛則爾雅之犏牛明爲一種矣圖實曰牛
充兵機兼之者旄冠於旄鼓爲軍之標旄肉致災
亦毛之招
敦薮之山其獸多旄牛

<p>狒狀如赤豹五尾一角音如擊石</p> 	<p>胡文煥圖本</p>  <p>狒</p>
<p>4-26 狒狀如赤豹五尾一角音如擊石</p> 	<p>西山經 八卷之二 至</p>  <p>章莢之山... 有獸焉其狀如赤豹五尾一角其音如擊石其名曰狒</p> <p>郭曰音靜 任臣案狒又音爭 一曰似狐有翼見廣韻黃氏續雜騷經異撰于狒狒注云似豹一角五尾圖贊曰章莢之山奇怪所宅有獸似豹厥色惟赤五尾一角鳴如擊石又篇海言狒如赤豹五尾與狒相類似誤也</p>
<p>三才圖會 鳥獸獸</p> 	<p>山海經 西山經</p>  <p>章莢之山有獸焉其狀如赤豹五尾一角其音如擊石其名曰狒</p> <p>郭曰音靜 任臣案狒又音爭 一曰似狐有翼見廣韻黃氏續雜騷經異撰于狒狒注云似豹一角五尾圖贊曰章莢之山奇怪所宅有獸似豹厥色惟赤五尾一角鳴如擊石又篇海言狒如赤豹五尾與狒相類似誤也</p> <p>圖書集成 64-255下</p>

[64] 靑熊(熊)



胡文煥圖本

50 靑熊



靑山中有靑熊者周成王之時天下太平東夷之人屠何獻也

4-30

三才圖會 鳥獸類 十六

靑熊
靑山中有靑熊者周成王之時天下太平東夷之人屠何獻也



圖書集成

靑熊圖



三才圖會 靑熊
靑山中有靑熊者周成王之時天下太平東夷之人屠何獻也

63, 64 中

【65】
天狗
狇てんぐ



天狗
狇てんぐ
天狗
狇てんぐ
天狗
狇てんぐ
天狗
狇てんぐ

胡文煥圖本
天狗

陰山有獸狀如狸白首名曰天狗食蛇
其音如猫佩之可以禦凶



和刻山海經圖

西山經
卷之二
至



又西三百里曰陰山滂沱之水出焉而南流注于蕃
澤其中多文貝見前經有獸焉其狀如狸或作
而白首名曰天狗其音如猫佩之可以禦凶

三才圖會 鳥獸獸

天狗
陰山有獸狀如狸白首
名曰天狗食蛇其音如
猫佩之可以禦凶



圖書集成

天狗圖



山海經

西山經

陰山有獸焉其狀如狸而白首名曰天狗其音如猫
佩之可以禦凶

郭曰狸或作豹權權或作猫猫 任臣按大荒有
赤犬曰天犬又太白化妖星名天狗窮奇獸亦名
天狗非此事物樹孫云天狗如狸白首音如猫食
蛇圖聲云乾麻不長天狗不大厥質雖小腹更除
害氣之相莊在乎食帶

大荒西經
大荒之中有赤犬名曰天犬其所下者有兵
周書云天狗所止地盡傾燭光燭天為流星長十
數丈其疾如風其聲如雷其光如電

天狗狀如狸而白
首

廣法



[66] 當康(康)たうかう



胡文煥圖本

46 當康

欽山中有獸狀如豚名曰當康其鳴自呼見則天下大穰韓子曰穰歲之於也



和刻山海經圖

東山經 卷之四 十一



欽山...

北流注于卑澤其中多鰻魚多文貝有歌焉其狀如豚而有牙其名曰當康知鳴自呼見則天下大穰

三才圖會

4-27 當康

欽山中有獸狀如豚名曰當康其鳴自呼見則天下大穰

三才圖會卷之鳥獸四



圖書集成

當康圖

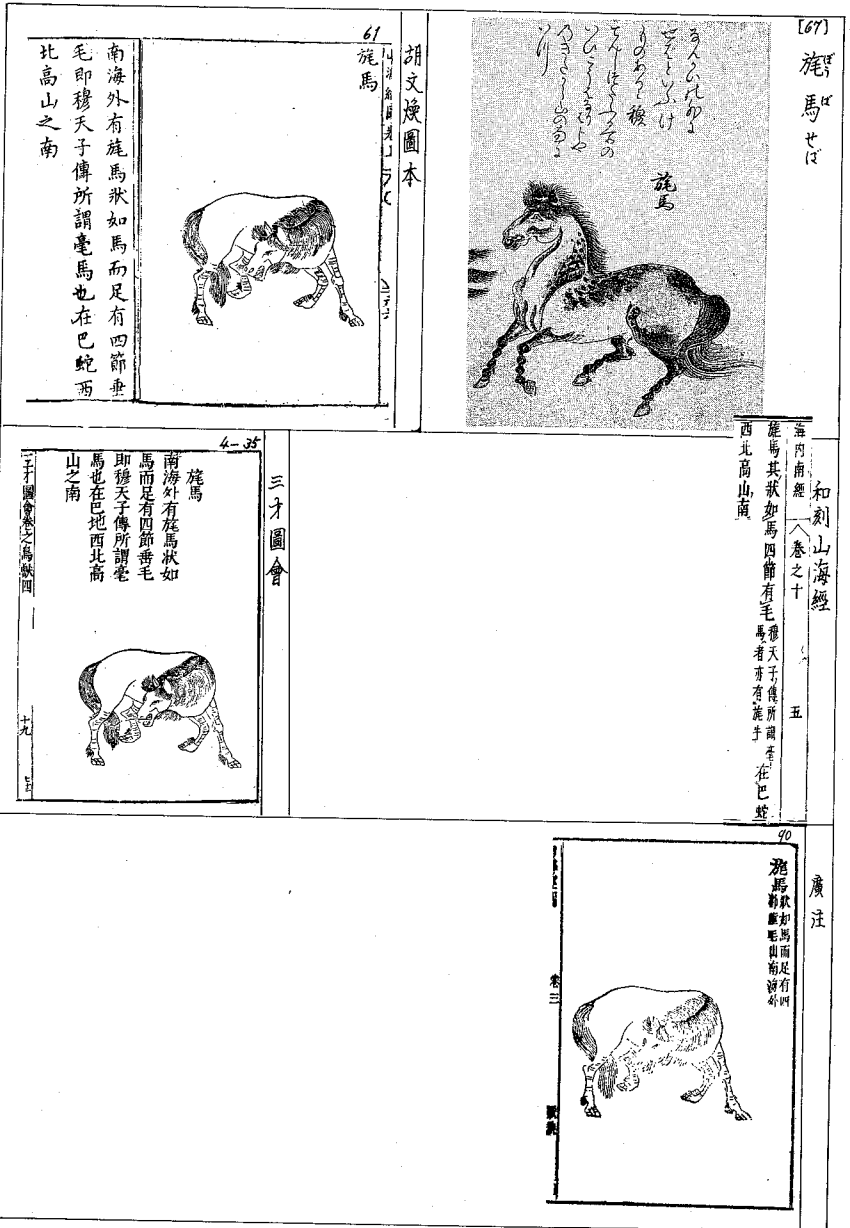
64-28

山海經

東山經

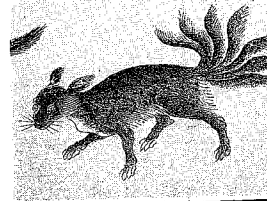
欽山有獸焉其狀如豚而有牙其名曰當康其鳴自呼見則天下大穰任臣按駢雅云當康牙豚也事物紺珠作當康誤





[68] 獬

久んへんくう
んくうくう
くうくうくう
くうくうくう
くうくうくう
くうくうくう
くうくうくう
くうくうくう
くうくうくう
くうくうくう



胡文煥圖本

93 線

翼望山有獸狀如狸五尾名曰獬又稱其音奪象聲食之可以治瘴



和刻山海經圖

西山經

卷之二

五



西山經
有水行百里至平翼望之山其木多金玉有獸焉其狀如狸一目而三尾名曰獬其音如奪百聲曰奪百物名亦所未詳黃瘴病也任臣按太平御覽引經作獬獬百聲作象百聲五侯鯖云原一目一尾音奪象音即斯獸也

三才圖會鳥獸獸

4-44

翼望山有獸狀如狸五尾名曰獬又稱其音奪象聲食之可以治瘴



圖書集成

謹圖

西山經



翼望之山有獸焉其狀如狸一目而三尾名曰獬其音如奪百聲是可以禦凶服之已瘴
郭曰翼望或作上翠山謹音獸或作原象百言其能作百種物聲也或曰翼百物名亦所未詳黃瘴病也任臣按太平御覽引經作獬獬百聲作象百聲五侯鯖云原一目一尾音奪象音即斯獸也

廣注謹



翼望山




謹圖

卷三

翼望

<p>涿瓌 侯澤有玄黼<small>與黻同</small>者穆天子傳曰天子獵於此澤得玄黼以祭河宗周禮曰黼黻法則死此地氣使然也</p>	<p>22 玄黼</p> 	<p>胡文煥圖本</p>	<p>玄黼</p>  <p>玄黼 天子獵於此澤得玄黼以祭河宗周禮曰黼黻法則死此地氣使然也</p>	<p>[69] 玄黼</p>
--	--	--------------	---	--------------------

<p>4-13 玄黼 涿瓌澤有玄黼者穆天子傳曰天子獵於此澤得玄黼以祭河宗周禮曰黼黻法則死此地氣使然也</p> 	<p>三才圖會 鳥獸獸</p>
--	-----------------



天犬
 のしるはるく
 かりんをん
 かんくわん
 天犬
 のしるはるく
 かりんをん
 かんくわん
 天犬
 のしるはるく
 かりんをん
 かんくわん

湖文煥圖本

103
 天犬



天門山有赤犬名曰天犬其所現處主
 有兵乃天狗之星光飛流注而生所生
 之日或數十其行如風聲如雷光如雷
 矣楚七國叛時嘗吹過梁野



大荒百藥 卷之十六 第九圖

金門之山

有赤犬名曰天犬其所現處主有兵
 天犬其所現處主有兵乃天狗之星光飛流注而生
 之日或數十其行如風聲如雷光如雷矣楚七國叛時嘗吹過梁野

三才圖會 鳥獸部

4-28

天犬



天門山有赤犬名曰天犬其所現處主
 有兵乃天狗之星光飛流注而生所生
 之日或數十其行如風聲如雷光如雷
 矣楚七國叛時嘗吹過梁野

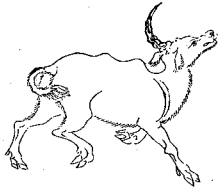
【71】
咒



胡文煥圖本

39 咒

禱過山多咒狀如野牛青色一角長三尺餘似馬鞍善觸身重千斤其皮堅厚可以制鎧



和刻山海經圖



西山經 卷之二第八圖 四

又西三百二十里曰嘯冢之山。其水出焉而東南流。注于沔。至江。其水出焉而北流。注于沔。水或作其上多桃枝鉤端。其獸多犀咒。熊羆。其色皆黃。能食鐵。

大明一統志 安南

大明一統志 卷之九十九 卷 四十五 1578
咒 狀如犀而角九尺其色青白其皮厚可制鎧交州記曰咒出九德有一角長三尺圖會 鳥獸歌 2264

4-21 咒

禱過山多咒狀如野牛青色一角長三尺餘似馬鞍善觸身重千斤其皮堅厚可以制鎧又曰咒似虎而小不啞日夜間獨立巖頂山崖聽泉聲好靜直至禽鳥鳴時天將曉方靜其泉



圖書集成

咒



爾雅

釋獸

咒似牛

注一角青色重千斤 說文云咒如野牛青毛其皮堅厚可制鎧交州記曰咒出九德有一角角長三尺餘形如馬鞍柄是也

山海經

西山經

嘯冢之山獸多犀咒熊羆

女林之山其獸多虎豹犀咒

庭陽之山其獸多犀咒

衆獸之山其獸多犀咒

南山經

禱過之山其下多犀咒

注犀好噉棘口中常灑血沫咒亦似水牛

北山經

敦薹之山其獸多咒

中山經

嘯山其獸多犀咒

美山其獸多犀咒

海內南經

咒在舜葬東湘水南其狀如牛蒼黑一角

[73]

狻猊



此獸之形如獅子
而面如人其尾如
龍其聲如雷其性
喜食人肉其力能
負千石其毛如雲
其爪如金其尾如
龍其聲如雷其性
喜食人肉其力能
負千石其毛如雲

胡文煥圖本

8
狻猊



南方山谷中有獸名曰狻猊其皮辟瘟
牛尾虎足身黃黑色人寢其皮辟瘟
其形可辟邪祇食銅鐵不食他物

鳥獸圖畫



三才圖會鳥獸類

狻猊

南方山谷中有
獸名曰狻猊其
身黃黑色人寢
其皮辟瘟圖其
形可辟邪祇食
銅鐵不食他物



圖書集成
禽蟲典第六十七卷

狻猊考

釋名

狻猊

狻猊

狻猊



兩狻猊

釋狀

狻猊

似熊小頭卑脚黑白駁能祇食銅鐵及竹骨骨節強重中實少龍皮辟淫或曰豹白名者別名狻猊一名白豹子林云似熊而白黃出蜀郡一曰

白豹

狻猊

狻猊

狻猊似熊象鼻犀目獅首豺髮小頭卑脚黑白駁能祇食銅鐵及竹骨實無體皮辟溫濕以為坐毯臥褥則消塵外之氣字从廉省蓋以此也爾雅曰狻猊曰狻猊黑虎蜀都賦云載食鐵之獸即狻猊也劉子曰飛鹿甘煙走狻猊所居隔絕嗜好不同未足怪也舊說狻猊為兵可以切玉其溺又能消鐵為水

63
659

〔76〕
龍馬^{リウマ}
龍馬^{リウマ}



胡文煥圖本

36
龍馬



孟河出龍馬者仁馬也高八尺五寸長
頸脰上有翼旁有垂毛踏水不沒聖人
能用人則天不愛道地不愛寶故河出
龍馬焉

三才圖會鳥獸獸

30-30
龍馬

孟河出龍馬者
仁馬也高八尺
五寸長頸脰上
有翼旁有垂毛
踏水不沒聖人
能用人則天不
愛道地不愛寶
故河出龍馬焉
三才圖會卷之鳥獸三



圖書集成

6384下



龍馬圖
宋書

符瑞志

龍馬者仁馬也河水之精高八尺五寸長頸有翼
騰黃者神馬也其召黃王者德御四方則出

索		引		50音順	
8	鵠鷄 いよ	7	鷄 しゆ	38	駮 はく
53	厭火獸 えんかじゆ	56	酋耳 しゆじ	75	獮 ばく
2	鸞 鷲 がとさく	35	朱獺 しゆじゆ	31	白澤 はくたく
55	猾褊 がつかい	54	乘黄 しようこう	12	白雉 はくち
51	羆 かん	22	竦斯 しようし	52	白鹿 はくろく
59	臙疏(疎) かんそ	26	燭陰 しよういん	11	馬鷄 ばけい
33	窮奇 きゆうき	24	神魃 しんぱつ	29	肥鱉 ひい
58	九尾狐 きゅうびこ	16	神陸 しんりく	39	飛鼠 ひそ
9	鴟鵂 きう	32	騶虞 じゆ	18	畢方鳥 ひつぱうちう
23	強(疆)良 きやうりやう	4	數斯 すし	74	狒狒 ひひ
13	瞿如 きよじよ	63	猙 せい	27	比翼鳥 ひよくちう
15	絜鉤 けつこう	1	精衛 せいゑい	47	福祿 ふくろく
68	獬 げん	64	青熊 せいゆう	5	鳧 ぼ
69	玄獬 げんかく	41	赤狸 せきり	62	旄牛 ぼうぎゆう
19	玄鶴 げんかく	28	相柳氏 せうりゆうし	67	旄車 ぼうしゃ
30	鼓 こ	61	葱壟 そうろう	37	孟槐 もんかい
49	吼 こう	6	駝鷄 だけい	60	猛豹 もんぱう
50	猴 こう	42	長龜 ちやうき	14	鸚 ぱん
73	狡犬 ぎやうけん	10	長尾鷄 ちやうびけい	20	鸞 らん
40	罍 たい	36	龜(儀) てい	57	蜚蜉 ひひ
71	兕 じ	27	帝江 ていかう	76	龍馬 りゆうば
3	蜚鼠 ひそ	70	天犬 てんけん	34	類 ろい
46	耳鼠 じそ	65	天狗 てんこう	44	羚羊 れいりやう
45	鮑犬 ぱうけん	43	天馬 てんば	48	靈羊 れいりやう
17	鵲神 じやくしん	72	辣 とう		
25	奢尸 しゃし	66	當康 とうかう		